

幼 児 教 育 科

1 年

授 業 科目名	人権教育	担 当 教員名	幼児教育科 教員	単位数	1	授業 区分	講義	開講 時期	1 年 前期
【授業の到達目標及びテーマ】 近年、各事業所（幼稚園・保育所）においては、保護者との連携が強く求められている。特に、先生の何気ない一言が大きな問題となることも少なくない。小さな子どもといえども一人一人、人としての人権がありその人権を守ること、適切な人権感覚を助長することが、保育者として必要である。 子どもの人権を守ることを常に念頭に置き、適切な対応ができる保育者としてに成長することを目的とする。									
【授業の概要】 ・ 幼児教育科の専任教員の専門性を活かし、各々の分野における人権をテーマにした講義を展開する。 ・ 自分の人権を守り、他者の人権を守ろうとする意識・意欲・態度を身につけさせる育成を重点化して実施する。 ・ 積極的に外部の講師に授業をしていただくことで、人権教育の新しい考え方などを積極的に学習する。									
【授業計画】									
第 1 回	オリエンテーション・人権教育の基本理念について（グループワーク）								
第 2 回	身近な暮らしの中の人権課題について（グループワーク）								
第 3 回	人権尊重の精神を担保する法令について（グループワーク）								
第 4 回	福岡県人権教育・啓発基本をもとに、人権問題について考える。								
第 5 回	人権三法から人権教育を考える（障害者差別解消法・ヘイトスピーチ解消法・部落差別解消推進法）								
第 6 回	性的少数者の人権問題について（LGBTQ+について考える）（グループワーク）								
第 7 回	「いじめ」の現状と「いじめ」のとらえかたについて（グループワーク）								
第 8 回	まとめ（対人援助者の人権侵害について考えてみる。）グループワーク・発表								
【学生に対する評価】 授業における取組状況、参加・発言、等による総合評価									
【テキスト及び参考書】 テキスト：各担当者が必要に応じて配布、連絡する 参 考 書：「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」（フレーベル館）									
【学生へのメッセージ】 日常生活の中で、自分が他の人の人権を侵害していると気づかずにいる場合が多い。保育士や幼稚園教諭は人権侵害が容易にできる立場に在ることを常に自覚して、対人援助者としての職務を果たしていただきたい。 そのためにも、「人権」を科学的に認識するために、積極的に授業に参加してください。									
【備 考】									

授 業 科目名	日本国憲法	担 当 教員名	小野 憲昭	単位数	2	授業 区分	講義	開講 時期	1 年 後期
【授業の到達目標及びテーマ】 日本国憲法に規定してある国家統治の機構、基本的人権の保障の内容が講義の中心です。 憲法の存在意義、日本国憲法が定める国家統治の仕組みや、基本的人権保障の目的、機能を明らかにするとともに、現代における憲法の意義や問題状況を理解することを目標としています。 1. 憲法とは何か、その存在意義と役割を理解することができる。 2. 人権保障に関する基本的な知識を身につけることができる。 3. 憲法問題の解決の仕方を通じて、国や社会とのかかわり方について主体的に考えることができる。									
【授業の概要】 現代社会に生じているさまざまな問題を通じて、日本国憲法の改正論議が盛んになってきています。 憲法とは何なのか、何のために存在するのかということを理解した上で、国家や社会とのかかわり方を考えていかなければなりません。そこで、本講義では、憲法の存在意義、日本国憲法が定める国家統治の仕組みや、基本的人権保障の目的、機能について講義します。									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第 1 回	国家と法、憲法の意味・特質				【事前】 指定された範囲の教科書による予習				
					【事後】 復習ノートづくりと授業中出題の課題作成				
第 2 回	憲法保障制度				【事前】 指定された範囲の教科書による予習				
					【事後】 復習ノートづくりと授業中出題の課題作成				
第 3 回	日本国憲法史、日本国憲法の基本原理				【事前】 指定された範囲の教科書による予習				
					【事後】 復習ノートづくり、内容理解に有益な情報収集				
第 4 回	天皇制、平和主義				【事前】 指定された範囲の教科書による予習				
					【事後】 復習ノートづくりと授業中出題の課題作成				
第 5 回	基本的人権の原理、				【事前】 指定された範囲の教科書による予習				
					【事後】 復習ノートづくり、内容理解に有益な情報収集				
第 6 回	基本的人権の内容、法の下での平等、 生命・自由・幸福追求権				【事前】 指定された範囲の教科書による予習				
					【事後】 復習とUPした資料を参考に課題作成				
第 7 回	精神的自由権①―内心の自由				【事前】 指定された範囲の教科書による予習				
					【事後】 復習ノートづくり、内容理解に有益な情報収集				
第 8 回	精神的自由権②―表現の自由				【事前】 指定された範囲の教科書による予習				
					【事後】 復習ノートづくりと授業中出題の課題作成				
第 9 回	人身の自由				【事前】 指定された範囲の教科書とUPした資料による予習				
					【事後】 復習ノートづくりと授業中出題の課題作成				
第10回	経済活動の自由				【事前】 指定された範囲の教科書による予習				
					【事後】 復習ノートづくり、内容理解に有益な情報収集				
第11回	社会権①―生存権				【事前】 指定された範囲の教科書による予習				
					【事後】 復習ノートづくりと授業中出題の課題作成				
第12回	社会権②―労働基本権				【事前】 指定された範囲の教科書による予習				
					【事後】 復習とUPした資料を参考に課題作成				
第13回	国家統治の機構①―国会				【事前】 指定された範囲の教科書による予習				
					【事後】 復習ノートづくりと授業中出題の課題作成				
第14回	国家統治の機構②―内閣、財政、地方自治				【事前】 指定された範囲の教科書による予習				
					【事後】 復習ノートづくりと内容理解に有益な情報収集				
第15回	国家統治の機構③―裁判所				【事前】 指定された範囲の教科書による予習				
					【事後】 復習ノートづくりと授業中出題の課題作成				
【学生に対する評価】 小課題レポート（50％）、筆記試験（40％）、授業への参加度（10％）によって評価します。									

【テキスト及び参考書】

テキスト：伊藤 正巳 著 憲法入門〔第4版補訂版〕有斐閣

参考図書：「社会福祉小六法」（ミネルヴァ書房）

「最新保育資料集」（ミネルヴァ書房）

【学生へのメッセージ】

法律に対する予備知識は特に必要ないのですが、社会問題や政治問題、国際情勢などに関心をもって受講して欲しいと思います。

法律の世界は、最初は少し馴染みにくい世界ですが、慣れるしかないようです。理解に努めてください。

復習を中心に理解を深めてください。復習をかねたノートづくりや小課題レポートにも取り組んでいただきます。

質問があれば講義の前後いつでも受け付けます。

【備 考】

【担当教員の連絡先】

学校専用E-mail : shin@tohaya.ac.jp

授 業 科目名	英語 I	担 当 教員名	大城 一之	単位数	1	授業 区分	演習	開講 時期	1年 前期
【授業の到達目標及びテーマ】 ①将来の職場を見据え、現場で必要とされる必要最低限の英会話や保育単語を学習する。 ②基礎英語の重要性を考え、まずは中学・高校で学習した文法や構文などの復習をする。 ③現場で実施されているアプリを使用した英語学習を実践する。 ④グループワークでの英語教材を使用し、相互のコミュニケーションがとれる英会話を実践する。 ⑤就職先を意識した職場での英語の必要性を説き、日本と外国での異なる文化を理解し人権問題について考える。									
【授業の概要】 日本で外国人労働者数が増えている中、外国籍家庭支援の問題も浮上している。特別な配慮が必要とされ状況に応じた支援をどのような形にするかが課題である。異文化理解を深めるために英語というツールが必要不可欠であるが日本語によるコミュニケーションが難しい場合、相手にどのように伝えるかの学習を進めていく。ICT教育を導入することで、実際の保育現場に立っても困らないようにパソコンや情報端末の用途を学び、様々なアプリケーションを使用した教材にて授業展開を目指す。									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	保育の英会話について 見聞き英単語 諸外国での保育と異文化理解				【事前】 テキストの読み込み・保育専門英単語学習				
					【事後】 自己紹介 Let me introduce myself.				
第2回	外国人との考え方・文化の違いについて人権問題を考える 自己紹介 Self introduction.(個人発表)				【事前】 辞書アプリのインストール・自己紹介分作成				
					【事後】 Self introductionの音読				
第3回	Sentence1 アクティブラーニング自己紹介 レクリエーションEnglish① Word Search 作成				【事前】 名前、長所、趣味などの英単語調べ				
					【事後】 プリントでの英単語活用方法				
第4回	Unit1 First Step to Childcare English P9.Nursery School				【事前】 疑問詞を使用した本文での日本語訳				
					【事後】 保育園で働く人々の役職名を覚えること				
第5回	Unit2 Yes-No Questions Do you ~? Are you ~? Can you~?				【事前】 Yes-No Questionsの答え方を考えておく				
					【事後】 助動詞+動詞の原形について				
第6回	Sentence1 It's nice to meet you.(挨拶) レクリエーションEnglish② ICT教育:Connect the Letter 練習				【事前】 初対面での挨拶と応答				
					【事後】 アルファベットを繋いで1つの絵を作成				
第7回	Sentence2 Please call him Davy.(Boy's Girl's names) レクリエーションEnglish② ICT教育:Connect the Letter 実践				【事前】 本文訳と事前の英単語調べ				
					【事後】 Boys' names の Girls' namesの違いと愛称				
第8回	Sentence3 Questions about Davy and his family. レクリエーションEnglish③ Lunch Menu 作成				【事前】 保育園での家庭調査票について				
					【事後】 昼食の食事メニュー単語の理解				
第9回	Unit3 Time and Numbers 時刻・数字の復習 レクリエーションEnglish④ 家庭調査票作成				【事前】 基数詞の学習 (1~100)				
					【事後】 家庭への質問事項例				
第10回	Sentence1 Please come to school at 8:00 レクリエーションEnglish⑤ Alpahbet Bingo①				【事前】 時間の書き取りと音読				
					【事後】 対話での質問応答について				
第11回	Sentence2 What's time? レクリエーションEnglish⑥ ICT教育:Naional holidays				【事前】 例文紹介・英文音読確認				
					【事後】 英語アプリの種別一覧表作成				
第12回	Sentence3 アクティブラーニング Numbers レクリエーションEnglish⑦ Alpahbet Bingo②				【事前】 5ケタ以上の数字の読み書き				
					【事後】 本文での登園時間と持参品の伝達方法				
第13回	Sentence4 四則演算 レクリエーションEnglish⑧ crossword puzzle①				【事前】 足し算引き算の数式を英文にする				
					【事後】 掛け算割り算の数式を英文にする				
第14回	Sentence5 Nursery school repuired supplies レクリエーションEnglish⑧ crossword puzzle②				【事前】 保育園入園時に必要な物品				
					【事後】 保育園からのお知らせ (コラム参照)				
第15回	Unit1~3のまとめと確認				【事前】 前期学習内容の確認				
					【事後】 新しい単語・英語構文の総復習				

【学生に対する評価:各評価項目については評価割合（％）を含む】 提出物（10％）、授業貢献度（発言など10％）、小テスト（5％）、ノート提出（5％）、定期試験（70％）での総合評価
【テキスト及び参考書】 「保育の英会話 Childcare English」（萌文書林） 「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示 文部科学省）（フレーベル館） 「保育所保育指針」（平成29年3月告示 厚生労働省）（フレーベル館）
【学生へのメッセージ】 本授業での教科書では保育に関わる新しい単語がたくさん出てくるため、辞書を活用することが多くなります。自宅に辞書のない人は携帯で辞書アプリを取得しておくとう便利です。予習復習する時に役に立ちます。教材プリントを毎時間配布するため、専用のファイル（40ポケット）を準備してください。
【備 考】 授業前後の自主学習として予習・復習プリントにて毎時間確認を行う。
【担当教員の連絡先等】 担当教員E-mail:ooshiro@tohaya.ac.jp 学校専用E-mail:

授 業 科目名	英語Ⅱ	担 当 教員名	大城 一之	単位数	1	授業 区分	演習	開講 時期	1年 後期
【授業の到達目標及びテーマ】 ①子どもへ英語に対して、円滑なアプローチができるように教材を用いて実践を行う。 ②外国人の子どもの保育に関する知識や情報を知り、伝達が円滑に進むような英語力を身に付ける。 ③英語でのリスニング能力を高める目的としてビデオ教材を使用し知的障害や身体障害者をもつ心情を理解しつつ人権問題を考える。 ④幼児教育で行われている遊びを取り入れ、実際に保育園や幼稚園で取り入れられている幼児向けの教育実践アプリケーションを使用し、グループ活動にて学習する。									
【授業の概要】 外国語の学習を通して国際的な視野・知識を広げ異文化を理解し、スピーチやディスカッション活動を通じて情報や自分の考えを場面目的に応じた対応ができるように構成する。リスニング力と読解力を身につけ、保護者との見解が相違しないようにコミュニケーション能力を高め、相手方の配慮が行き届く人材育成を目指す。到達目標として授業で学んだ知識や技能を統合し読解力を身につけ、ICT教育を実践することで楽しみながら授業展開ができるようにアクティブラーニング形式で進めていく。									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	Unit 4 Directions Please around Minato Nursery School レクリエーションEnglish① Annual school calendar①				【事前】 事前にCDを聴き文章の流れを把握しておく				
第2回	Sentence1 Where is the post office? レクリエーションEnglish① Annual school calendar②				【事後】 道順や場所を説明する英語表現の復習				
第3回	Unit5 Davy meets his classmate Takashi. レクリエーションEnglish② リズム遊び① Head,shoulders.				【事前】 遊び方の名称と出身国名の予習				
第4回	Unit6 アクティブラーニング 立位体前屈 レクリエーションEnglish③ ICT教育:長さの単位(inch)				【事後】 リズム遊びでの踊りを反復練習				
第5回	Sentence1 It's sunny today. レクリエーションEnglish④ Family tree(系図) 調査				【事前】 英・米での長さ・重さ単位を比較しておく				
第6回	Sentence2 He could be nervous because he is new. レクリエーションEnglish④ Family tree(系図) 作成				【事後】 ネットを使用した海外での長さ単位調査				
第7回	Sentence3 How was your day? 過去形の復習 レクリエーションEnglish⑤ ICT教育:折り紙crafts 作成				【事前】 新単語の下調べと本文訳にて内容を把握				
第8回	Sentence4 Have you ever seen a ghost? 過去分詞の復習 レクリエーションEnglish⑤ ICT教育:折り紙crafts 実践				【事後】 身体に関する単語の読み書き練習				
第9回	Sentence5 アクティブラーニング dance① レクリエーションEnglish⑥ リズム遊び② Knees and Toes				【事前】 助動詞・副詞の使い方、文法上の位置を確認				
第10回	ビデオ学習① 外国人との人権問題を考える①				【事後】 国民の祝日及び記念日に関する単語学習				
第11回	ビデオ学習② レポート提出 外国人との人権問題を考える②				【事前】 規則動詞と不規則動詞の事前学習				
第12回	Unit7 アクティブラーニング dance② レクリエーションEnglish⑥ ICT教育:リズム遊び③				【事後】 折り紙アプリを使用した折り紙を作成し提出				
第13回	Unit7 Jobs at Nursery school. 長文② レクリエーションEnglish⑦ Annual school calendar①				【事前】 過去分詞を使った現在完了形を例文提示				
第14回	Unit7 Jobs at Nursery school. 長文③ レクリエーションEnglish⑦ Annual school calendar②				【事後】 折り紙アプリの共有と情報交換				
第15回	Unit4～7のまとめ				【事前】 The clean-up songのCDを視聴しておく				
					【事後】 英文をリスニングし実際に体を動かす				
					【事前】 どのような言動が人権侵害にあたるかを考える				
					【事後】 ビデオ視聴内の差別用語の抜き出し				
					【事前】 前回までの教材を振り返ること				
					【事後】 あまり使用しない表現方法を書き留めておく				
					【事前】 The farmer in the dell.のCDを視聴しておく				
					【事後】 音楽アプリの収集・視聴				
					【事前】 保育園で5歳児担当業務を考えておく				
					【事後】 保育業務内での注意点を英語で書き込む				
					【事前】 前回授業で学んだ内容・構文を整理しておく				
					【事後】 月別行事の英単語を振り分けておく				
					【事前】 後期学習内容の確認				
					【事後】 新しい単語・英文の総復習				

【学生に対する評価:各評価項目については評価割合（％）を含む】 提出物（10％）、授業貢献度（発言など10％）、小テスト（5％）、ノート提出（5％）、定期試験（70％）での総合評価
【テキスト及び参考書】 「保育の英会話 Childcare English」（萌文書林） 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」（フレーベル館）
【学生へのメッセージ】 リスニング力を身につけるため個人でも教科書巻末にあるCDを活用してください。 後期では構文や文法がやや難しくなります。予習や復習をしっかりとって授業に臨みましょう。 また英語の教材を和訳しながら制作する作業があります。のりやハサミ、セロハンテープが必要になるので準備をしてください。またリズム遊びでは体を動かしますので軽装で授業に臨んでください。
【備 考】 授業前後の自主学習として予習・復習プリントにて毎時間確認を行う。
【担当教員の連絡先等】 担当教員E-mail:ooshiro@tohaya.ac.jp 学校専用E-mail:

授 業 科目名	体育講義	担 当 教員名	高西 敏正	単位数	1	授業 区分	講義	開講 時期	1 年 前期
【授業の到達目標及びテーマ】 生涯を心身ともに健康に生きるために、身体の特性について興味・関心をもつことは自分自身の健康の保持増進に役立つ。また、そのことが保育者として子ども達にも寄与できると考え、以下3点を目標に取り組む。 ①体力の必要性や体力に応じた運動を実践するための基本原理・原則を理解する。 ②健康の保持増進・体力向上のために、適切なトレーニング方法を知る。 ③健康管理に興味・関心をもち、今後のライフステージのあり方について学ぶ。									
【授業の概要】 高校での体育・保健の学習を基礎として、生涯を健康に生きるために必要な人間の身体特性について、興味・関心をもち、理解する。また、各個人が講義をもとに実践することから、保育者として他者への配慮・運動能力の向上につながればと考え下記の項目を実施する。									
【授業計画】				【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】					
第1回	オリエンテーション			【事前】 教科の内容をシラバスから読み取りまとめる 【事後】 本時間の復習に取り組む。					
第2回	健康と体力			【事前】 指示されている予習に取り組む。 【事後】 本時間の復習に取り組む。					
第3回	運動の好き嫌い（グループワーク）			【事前】 指示されている予習に取り組む。 【事後】 本時間の復習に取り組む。					
第4回	運動の好き嫌い（まとめ）・運動有能感			【事前】 指示されている予習に取り組む。 【事後】 本時間の復習に取り組む。					
第5回	性教育			【事前】 指示されている予習に取り組む。 【事後】 本時間の復習に取り組む。					
第6回	運動と神経系			【事前】 指示されている予習に取り組む。 【事後】 本時間の復習に取り組む。					
第7回	ストレス			【事前】 指示されている予習に取り組む。 【事後】 本時間の復習に取り組む。					
第8回	疲労			【事前】 指示されている予習に取り組む。 【事後】 本時間の復習に取り組む。					
第9回	まとめ・振り返り			【事前】 指示されている予習に取り組む。 【事後】 本時間の復習に取り組む。					
【学生に対する評価】 授業への取り組み・態度（70%）、提出物・小テスト（30%）による総合評価									
【テキスト及び参考書】 ◎授業プリント配布 ○「幼稚園教育要領解説」（平成30年3月告示 文部科学省）（フレーベル館） ○「保育所保育指針解説」（平成30年3月告示 厚生労働省）（フレーベル館）									
【学生へのメッセージ】 保育者を目指す者として、心身ともに健康であることはとても重要なことです。実際に講義を受講するだけでなく、予習・復習の意味からも実践していきましょう。笑顔で明るく元気な保育者を目指し一緒に取り組みましょう。 ○授業では、課題やプリントを配布するので必ず各自で毎時予習・復習を行うこと									
【備 考】									
【担当教員の連絡先】 担当教員E-mail:takanishi@tohaya.ac.jp 学校専用E-mail:									

授 業 科目名	体育実技	担 当 教員名	高西 敏正	単位数	1	授業 区分	実技	開講 時期	1 年 前期
【授業の到達目標及びテーマ】 保育の実践には基礎体力の保持と増進は必要不可欠である。そのため、以下の 3 点を到達目標に取り組む。 ①運動の意義を理解する。 ②健康の保持増進と体力の向上を図る。 ③生涯を通して運動に親しむ資質や能力を身につける。									
【授業の概要】 スポーツ・身体運動を通して、生涯にわたる心身の健康の保持・増進を実践を通して学ぶ。また、グループワークを通してコミュニケーション能力の育成を図る。									
【授業計画】									
第 1 回	オリエンテーション	第13回	バレーボール① (パス・サーブ練習)						
第 2 回	体ほぐし (ストレッチング)	第14回	バレーボール② (ゲーム)						
第 3 回	運動と遊び (外部講師)	第15回	バドミントン① (ストローク練習)						
第 4 回	コミュニケーションゲーム① (少人数でのゲーム)	第16回	バドミントン② (ゲーム)						
第 5 回	コミュニケーションゲーム② (大人数でのゲーム)	第17回	卓球① (フォアハンド・バックハンド練習)						
第 6 回	コミュニケーションゲーム③ (道具を使ったゲーム)	第18回	卓球② (ゲーム)						
第 7 回	コミュニケーションゲーム④ (イニシアティブゲーム)	第19回	ミニサッカー① (キック・パス練習)						
第 8 回	リズムエクササイズ (外部講師)	第20回	ミニサッカー① (ゲーム)						
第 9 回	レクリエーションバレーボール① (ソフトバレーボール)	第21回	コーディネーショントレーニング① (個人)						
第10回	レクリエーションバレーボール② (ソフトバレーボール)	第22回	コーディネーショントレーニング② (集団)						
第11回	レクリエーションバレーボール③ (風船バレーボール)	第23回	まとめ・振り返り						
第12回	ドッジボール								
【事前・事後学習(学習課題等の具体的内容)】 【事前】 1回目：シラバスを読み内容を理解する。2～22回目：指定されている予習に取り組む。 【事後】 毎時間の授業を振り返り実技の復習に取り組む。									
【学生に対する評価】 授業への取り組み・態度（70%）、提出物・レポート（30%）による総合評価									
【テキスト及び参考書】 必要に応じてプリントを用意 コーディネーションゲーム 6 0 （久保田浩史 他 著） （ベースボール・マガジン社） 「幼稚園教育要領」（平成30年3月告示 文部科学省）（フレーベル館） 「保育所保育指針」（平成30年3月告示 厚生労働省）（フレーベル館）									
【学生へのメッセージ】 常日頃より健康管理に留意し授業に臨めるように、事前の準備（体操服・体育館シューズ）をしておくこと。 習熟に時間を要する課題については、早めに取り組んで毎時予習と復習をすること。 『笑顔で・明るく・元気よく』子どもと接することのできる保育者を目指して楽しく学びましょう。									
【備 考】									
【担当教員の連絡先】 担当教員E-mail:takanishi@tohaya.ac.jp 学校専用E-mail:									

授 業 科目名	音楽Ⅰ	担 当 教員名	石井 貴子 大屋 省子	単位数	2	授業 区分	演習	開講 時期	1 年 前期
【授業の到達目標及びテーマ】									
器楽（1）子どもの音楽表現活動に必要なピアノ演奏技術を習得している。 （2）領域「表現」の子どもの表現活動を理解し、指導、援助に必要な表現力を身に付けている。 声楽（1）音楽の基礎となる正しい正確な音程・リズム感・拍感を養い、ハーモニーを体得し歌う喜びを味わう。 （2）保育現場に対応できる教材を使用しながら音楽性を高める。									
【授業の概要】									
音楽Ⅰはピアノと声楽との授業を行い、保育者として必要なピアノ演奏の基礎および発声法と歌唱法の基礎の習得を目指す。また、ピアノ課題に対応した読譜の指導を継続して行い、演習と理論とを関連付けた授業を展開する。ピアノの授業形態は、グループ別個人指導とし学生の状況に応じたレッスンをを行い、互いの技能や表現を学び合える学習環境により、個別学習と協働的な学習とを取り入れた授業展開をする。また、担当教員によるインターネット上の模範演奏を、独習のための補助教材として活用する。									
【授業計画】				【器 楽】			【声 楽】		
第 1 回	オリエンテーション 授業形態および学習方法について、楽典の基礎			オリエンテーション 授業形態および学習方法について					
第 2 回	5指の基本練習			発声、呼吸法					
第 3 回	5指の基本練習 両手奏			レガート唱法の練習					
第 4 回	タイの練習 和音奏			2度音程の練習					
第 5 回	分散和音奏			3度音程の練習					
第 6 回	簡易伴奏			4度、5度音程の練習					
第 7 回	付点のリズムの練習			4分の2拍子、4分の4拍子					
第 8 回	8分の3拍子、8分の6拍子			カノン、ハーモニーの練習					
第 9 回	8分の3拍子、8分の6拍子 復習			2分音符、4分音符					
第10回	全音符から16分音符までの練習			8分音符、16分音符					
第11回	ハ長調の音階と主要三和音、コードネーム伴奏付け			休符の練習					
第12回	ト長調の音階と主要三和音、コードネーム伴奏付け			シンコペーションの練習					
第13回	ヘ長調の音階と主要三和音、コードネーム伴奏付け			生活の歌、行事の歌、季節の歌の歌唱練習					
第14回	ニ長調の音階と主要三和音、コードネーム伴奏付け			前期のまとめと前期試験曲発表					
第15回	前期試験対策のレッスン 担当講師による受験資格および受験レベルの確認 前期のまとめ ピアノ合格カード提出			前期試験対策のレッスン					
【学生に対する評価】									
ピアノ（50％）声楽（50％）による総合評価 ピアノ：実技試験（80％）授業課題の合格数（10％）受講態度（復習と次回授業への予習を含む）（10％） 声 楽：実技試験（80％）課題（提出物）（10％）受講態度（授業への取り組み）（10％）									
【テキスト及び参考書】									
テキスト：器楽 「保育士・幼稚園教諭小学校教諭養成のためのピアノテキスト」全国大学音楽教育学会九州地区学会（カワイ出版） 「ブルグミュラー25の練習曲集」（全音楽譜出版社）、配布楽譜（生活の歌） テキスト：声楽 「こどものうた200」「続こどものうた200」（チャイルド本社） 配布楽譜＜新版＞げっくりかつくりわらべうたによる合唱曲集-4-（東京わらべうた） 参考書 「幼稚園教育要領（文部科学省平成29年3月告示）」（フレーベル館） 「保育所保育指針（厚生労働省平成29年3月告示）」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省平成29年3月告示）」（フレーベル館）									

【学生へのメッセージ】

器楽：ピアノは毎日の練習の積み重ねが大切です。授業内容は、必ず復習して次の授業につなげましょう。また、楽器、時間の確保をして、継続した練習習慣を身に付けられるように、環境を整えてください。子どもたちと、笑顔で楽しく音楽活動をしている自分をイメージして頑張りましょう。

声楽：保育者をめざす仲間が出逢い、歌い合う奇跡のような時間を大切に学びましょう。歌は誰もがもっている持ち運び自由の楽器です。まずは、自然な発声をそして正確な清潔な音程を体得しましょう。

【備 考】特になし。**【担当教員の連絡先等】**

器楽：ピアノ担当 E-mail:ishii@tohaya.ac.jp

学校専用E-mail:shin@tohaya.ac.jp

授 業 科目名	音楽Ⅱ	担 当 教員名	石井 貴子 大屋 省子	単位数	2	授業 区分	演習	開講 時期	1 年 後期
【授業の到達目標及びテーマ】 器楽（1）子どもの音楽表現活動に必要なピアノ演奏技術を習得している。 （2）領域「表現」における子どもの表現に即した、保育者の表現力、教材研究について理解している。 声楽（1）音楽の基礎となる正しい正確な音程・リズム感・拍感を養い、ハーモニーを体得し歌う喜びを味わう。 （2）保育現場に対応できる教材に即した歌の楽しさを習得している。									
【授業の概要】 音楽Ⅱは音楽Ⅰの内容をふまえて、保育者に必要なピアノ演奏の基礎および発声法と歌唱法の基礎を習得する。 また、読譜の指導も引き続き行い知識・技術の向上を図る。ピアノの授業形態はグループ別個人指導とし、個人の学習進度に応じた指導を行う。また、基礎的な練習課題に加え、マーチや生活の歌、季節の歌など実践に即した教材についても学習する。なお、個人のレベルに応じてブルグミュラー25の練習曲集、ソナチネ、ソナタより課題曲を適宜指示する。音楽Ⅰに引き続き、担当教員によるインターネット上の模範演奏を独習の補助教材として活用する。									
【授業計画】				【器 楽】			【声 楽】		
第1回	オリエンテーション 前期の振り返り、後期課題の確認			オリエンテーション 前期の振り返り、後期内容の説明					
第2回	生活の歌弾き歌いの練習			6度、7度音程の練習					
第3回	バイエル90			8度音程の練習					
第4回	バイエル78			乳児の遊び歌「アジアシアヒル」「ココハトウチャン」「トウキョウト」					
第5回	バイエル96			幼児の遊び歌「なべなべ」「お茶をのみに」					
第6回	生活の歌弾き歌い復習			4分の3拍子の練習					
第7回	生活の歌弾き歌いの確認			8分の3拍子、8分の6拍子					
第8回	バイエル80			生活の歌 歌唱発音の練習					
第9回	バイエル91、マーチ			カノン、ハーモニーの練習					
第10回	マーチ、			2部合唱、3部合唱					
第11回	ブルグミュラー25の練習曲より、「アラベスク」			レガート唱法の確認					
第12回	「進歩」「バラード」他			2度、3度音程の確認					
第13回	「スティリアンヌ」「乗馬」他、ソナチネ、ソナタ任意曲			4度、5度、8度音程の確認					
第14回	後期試験課題曲の発表、試験対策の練習			後期のまとめと後期試験曲発表					
第15回	後期試験対策のレッスン 担当講師による受験資格および受験レベルの確認 後期のまとめ ピアノ合格カード提出			後期試験対策のレッスン					
【学生に対する評価】 ピアノ（50％）声楽（50％）による総合評価 ピアノ：実技試験（80％）授業課題の合格数（10％）受講態度（復習と次回授業への予習を含む）（10％） 声 楽：実技試験（80％）受講態度（授業への取り組み）（10％）課題の取り組み（10％）									
【テキスト及び参考書】 テキスト：器楽 「保育士・幼稚園教諭小学校教諭養成のためのピアノテキスト」全国大学音楽教育学会九州地区学会（カワイ出版） 「ブルグミュラー25の練習曲集」（全音楽譜出版社）、「ソナチネ曲集」、配布楽譜（生活の歌） テキスト：声楽 「こどものうた200」「続こどものうた200」（チャイルド本社） 配布楽譜＜新版＞げっくりかっくりわらべうたによる合唱曲集-4-（東京わらべうた） 参考書 「わらべうた～わたしたちの音楽～」（コダーイ芸術教育研究所） 「わらべうたから始める音楽教育」（佐賀コダーイ芸術教育研究会） 「幼稚園教育要領（文部科学省平成29年3月告示）」（フレーベル館） 「保育所保育指針（厚生労働省平成29年3月告示）」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省平成29年3月告示）」（フレーベル館）									

【学生へのメッセージ】

器楽：後期は、ピアノテキストの課題に加えて、実習で行う弾き歌いのレッスンが始まります。子どもの前で笑顔で演奏ができるように、何度もくりかえり練習をしましょう。また、前期から引き続き、必ず予習・復習を行い授業に臨んでください。短時間でも、毎日練習すれば必ず力がついていきます。がんばってください。

声楽：保育者をめざす仲間が出逢い、歌い合う奇跡のような時間を大切に学びましょう。歌は誰もがもっている持ち運び自由の楽器です。まずは自然な発声を、そして正確な清潔な音程を体得しましょう。

【備 考】 特になし。**【担当教員の連絡先等】**

器楽：ピアノ担当 E-mail:ishii@tohaya.ac.jp

学校専用E-mail:shin@tohaya.ac.jp

授 業 科目名	図画工作Ⅰ	担 当 教員名	原賀 いずみ	単位数	1	授業 区分	演習	開講 時期	1年 前期
【授業の到達目標及びテーマ】									
① 造形表現に関わる基礎的な知識・技能を身につける。									
② 様々な表現方法を経験したり、素材に触れたりする中でその特性を理解し、幼児の表現活動に展開させることができる。									
③ 集団の中での表現や鑑賞の活動を通し、のびのびと自分の感性を解放する喜びを知ると共に、幼児の表現活動に対する共感的理解ができる。									
【授業の概要】									
領域「表現」の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて実践的に学び、幼児期の表現活動を支援するためにさまざまな素材を使った表現方法と指導力を身につけることを目標とする。また「鑑賞」の指導に関する基本的な考え方を学び、指導力を身に付ける。									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	オリエンテーション 発達段階ワークショップ 保育における造形表現の意義・授業の進め方	【事前】 「保育をひらく造形表現」を読みイメージを膨らませる 64-79 P							
		【事後】 授業の流れを知る。。発達段階を理解する							
第2回	子どもの心になってみる フィンガーペインティング 野菜スタンプ	【事前】 「保育をひらく造形表現」を読みイメージを膨らませる 17p							
		【事後】 自由に描く楽しさを知る							
第3回	染め紙で鯉のぼりを作ろう ① 染め紙の技法を知る・マーブリング	【事前】 「保育をひらく造形表現」を読みイメージを膨らませる							
		【事後】 染めの面白さを知る							
第4回	染め紙で鯉のぼりを作ろう② 染め紙で鯉のぼりを作る	【事前】 「保育をひらく造形表現」を読みイメージを膨らませる 132-133 p							
		【事後】 技法を試すチャレンジ精神を育む							
第5回	技法のおもちゃ箱① ビー玉ころがし・糸引き絵・糸巻き絵	【事前】 「保育をひらく造形表現」を読みイメージを膨らませる 44, 133 P							
		【事後】 技法を試すチャレンジ精神を育む							
第6回	技法のおもちゃ箱② あわせ絵・たらし絵・にじみ絵	【事前】 「保育をひらく造形表現」を読みイメージを膨らませる							
		【事後】 技法を試すチャレンジ精神を育む							
第7回	お名前絵本をつくろう① アイデアを考える	【事前】 名前絵本のイメージを考える。レオレオ二の絵本で研究							
		【事後】 お名前絵本のイメージを考える							
第8回	お名前絵本をつくろう② 制作	【事前】 お名前絵本のイメージを考え制作する							
		【事後】 お名前絵本のイメージを考え制作する							
第9回	お名前絵本をつくろう③ 制作	【事前】 名前絵本のイメージを考える							
		【事後】 お名前絵本のイメージを考え制作する							
第10回	お名前絵本をつくろう④ 制作	【事前】 お名前絵本のイメージを考え制作する							
		【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する							
第11回	お名前絵本をつくろう⑤ 絵本発表会	【事前】 発表会に備える							
		【事後】 鑑賞会を通して友達の作品の良さに気づく							
第12回	夏の花を描こう 筆作り・紫陽花 いろいろな技法で紫陽花を描こう	【事前】 チリメンモンスターを探せから海の多様性に気づく							
		【事後】 Kクレイを使って海の友だちを制作する							
第13回	墨を使って描く 向日葵・共同制作 手作り筆を使って向日葵を描く・線と色のハーモニー	【事前】 粘土の作品を彩色しポスターを作る							
		【事後】 友達の作品の良さに気づく							
第14回	Kクレイで作る海の友だち チリメンモンスターを探せを通して、海の友だちを創造する	【事前】 「保育をひらく造形表現」を読みイメージを膨らませる							
		【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する							
第15回	Kクレイで作る海の友だち 海の友だちポスターづくりと鑑賞会	【事前】 前期作品を揃える							
		【事後】 前期振り返りレポートの提出							
【学生に対する評価】									
・ 毎時の振り返りシート（間に合わない時は、次週提出）									
・ 作品と課題に向き合う姿勢									

【テキスト】

「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示 文部科学省）（フレーベル館）

「保育所保育指針」（平成29年3月告示 厚生労働省）（フレーベル館）

「保育をひらく造形表現」槇英子著（萌文書林）

【参考書・参考資料】

「絵画遊び技法百科」富山典子・岩木克子共著（ひかりのくに）

「子どもの絵の見方育て方」（鳥居昭美著）（大月書店）

【学生へのメッセージ】

- ・鉛筆、のり、はさみ、カッターを絵の具セットの中に常備しておいてください。
- ・課題により上記以外の必要な道具や材料があれば、事前に伝えますので準備してください。
- ・絵の具などで汚れても良い服装かエプロン等を準備してください。

【備 考】**【担当教員の連絡先】**

学校専用E-mail : shin@tohaya.ac.jp

授 業 科目名	図画工作Ⅱ	担 当 教員名	原賀 いずみ	単位数	1	授業 区分	演習	開講 時期	1年 後期
【授業の到達目標及びテーマ】 ① 造形表現に関わる基礎的な知識・技能を身につける。 ② 様々な表現方法を経験したり、素材に触れたりする中でその特性を理解し、幼児の表現活動に展開させることができる ③ 集団の中での表現や鑑賞の活動を通し、のびのびと自分の感性を解放する喜びを知ると共に、幼児の表現活動に対する共感的理解ができる。									
【授業の概要】 領域「表現」の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて実践的に学び、幼児期の表現活動を支援するためにさまざまな素材を使った表現方法と指導力を身につけることを目標とする。 また「観賞」の指導に関する基本的な考え方を学び、指導力を身に付ける。									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	オリエンテーション パネルシアターとは①				【事前】 パネルシアターのプリントを読み学ぶ				
	後期授業の進め方				【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する				
第2回	パネルシアターの彩色②				【事前】 パネルシアターのプリントを読み学ぶ				
					【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する				
第3回	パネルシアターの彩色 ③				【事前】 パネルシアターのプリントを読み学ぶ				
					【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する				
第4回	パネルシアターの彩色 ④				【事前】 パネルシアターのプリントを読み学ぶ				
					【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する				
第5回	パネルシアターの彩色 ⑤				【事前】 パネルシアターのプリントを読み学ぶ				
					【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する				
第6回	ポップアップカードを作ろう①				【事前】 ポップアップのプリントを読み学ぶ				
	カード作りの基本を学ぶ				【事後】 カードのデザインを考えておく。				
第7回	ポップアップカードを作ろう②				【事前】 「保育を開く造形表現」を読みイメージを膨らませる 29.175P				
	思いを伝えるカードを考えよう				【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する				
第8回	ポップアップカードを作ろう③				【事前】 「保育を開く造形表現」を読みイメージを膨らませる 29.175P□				
	制作				【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する				
第9回	ポップアップカードを作ろう				【事前】				
	鑑賞会				【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する				
第10回	サンタの国からの絵画制作・スクラッチでクリスマス				【事前】 皆の作品の良さを共有する				
					【事後】 クリスマスの絵をかき ペープサートを作る				
第11回	凧づくり①				【事前】 ペイプサーとのイメージを膨らませる				
					【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する				
第12回	凧づくり②				【事前】 「保育を開く造形表現」を読みイメージを膨らませる				
					【事前】 パネルシアターのプリントを読み学ぶ				
第13回	鬼の版画①紙版画・スチレン版画版づくり				【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する				
					【事前】 凧づくりのプリントを読み学ぶ				
第14回	鬼の版画 印刷・お面・掛け軸づくり				【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する				
					【事前】 パネルシアターのプリントを読み学ぶ				
第15回	まとめ				【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する				
					【事前】 パネルシアターのプリントを読み学ぶ				
【学生に対する評価】 ・毎時の振り返りシート（間に合わない時は、次週提出） ・作品と課題に向き合う姿勢									
【テキスト】 「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示 文部科学省）（フレーベル館） 「保育所保育指針」（平成29年3月告示 厚生労働省）（フレーベル館） 「保育を開く造形表現」（萌文書林）槇英子著 【参考書・参考資料】 「絵画遊び技法百科」富山典子・岩木克子共著（ひかりのくに） 「子どもの絵の見方育て方」（鳥居昭美著）（大月書店）									

【学生へのメッセージ】	
・鉛筆、のり、はさみ、カッターを絵の具セットの中に常備しておいてください。 ・課題により上記以外の必要な道具や材料があれば、事前に伝えますので準備してください。 ・絵の具などで汚れても良い服装かエプロン等を準備してください。	
【備 考】	
【担当教員の連絡先等）	学校専用E-mail:shin@tohaya.ac.jp

授 業 科目名	国 語	担 当 教員名	森永 哲二	単位数	1	授業 区分	演習	開講 時期	1 年 後期	
【授業の到達目標及びテーマ】 幼児教育に従事する保育者には、多くの資質や能力が求められる。とりわけ、この「国語」においては、表現力を 中心とした分野の育成を重視し、以下に記すテーマや到達目標への取組みを演習形式で実践する。 ①豊かな言葉の世界を獲得することを通して、伝えることのできる資質や能力を養成し、コミュニケーション能力 の育成を図り、保育者としての適切な国語力や文章表現力の向上を図る。 ②読み聞かせ等にも取り組み、話す力・聞く力の分野の育成を図り、ひいては、児童文学や児童文化への理解の促 進を図る。とりわけ、我が国の伝統的なものや文化への理解を深め、その伝達・伝承を図る。 ③保育者として必須の連絡帳、日誌、園だより、報告書などの表現面においてその基礎的な能力が備わるように取 り組む。										
【授業の概要】 ①国語全般に関する基礎的な理解と知識を深める。 ②効果的な表現力を養う上で、その基本的な技術などを学習し、「ことば」に対する関心や興味を高める。 ③園だよりや連絡帳、日誌、手紙、メール文などの実践的な表現力を高める。 ④毎時間、指定本読み・書き取り・基本的なマナー等をテキストに沿って行い、文章構成等の表現に取り組む。 ⑤幼児教育の専門家として、読み聞かせ力や伝え合う力の育成を図り、同時に児童文学や児童文化への理解の促進 と 自己の感性を高めるべく取り組む。 以上の5点を中心にして、演習形態での授業とする。										
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】					
第1回	オリエンテーション・国語概論			【事前】 指示された予習と復習課題に取り組む 【事後】 小テスト準備1、漢字語句小テスト第一回範囲						
第2回	国語について 理解を深め、正 しい日本語の 使い手となる	1、漢字とその音訓、仮名 (萬葉仮名、平仮名、カタカナ)			【事前】 指示された予習と復習課題に取り組む 【事後】 小テスト準備1、漢字語句小テスト第二回範囲					
第3回		2、五十音図といろは歌、 日本語の音韻			【事前】 指示された予習と復習課題に取り組む 【事後】 小テスト準備3、漢字語句小テスト第三回範囲					
第4回		3、現代仮名遣い			【事前】 指示された予習と復習課題に取り組む 【事後】 小テスト準備4、漢字語句小テスト第四回範囲					
第5回		4、送り仮名の付け方と現代語文法①			【事前】 指示された予習と復習課題に取り組む 【事後】 小テスト準備5、漢字語句小テスト第五回範囲					
第6回		5、送り仮名の付け方と現代語文法②			【事前】 指示された予習と復習課題に取り組む 【事後】 小テスト準備6、漢字語句小テスト第六回範囲					
第7回		6、待遇表現（敬語法）①			【事前】 指示された予習と復習課題に取り組む 【事後】 小テスト準備7、漢字語句小テスト第七回範囲					
第8回		7、待遇表現（敬語法）②			【事前】 指示された予習と復習課題に取り組む 【事後】 小テスト準備8、漢字語句小テスト第八回範囲					
第9回		8、待遇表現（敬語法）③			【事前】 指示された予習と復習課題に取り組む 【事後】 小テスト準備9、漢字語句小テスト第九回範囲					
第10回		実務の力を高め る	1、公用文 ～報告文、手紙文、メール文			【事前】 指示された予習と復習課題に取り組む 【事後】 小テスト準備10、漢字語句小テスト第十回範囲				
第11回			2、公用文 ～記録文、日誌、レポート			【事前】 指示された予習と復習課題に取り組む 【事後】 小テスト準備11、漢字語句小テスト第十一回範囲				
第12回	3、意見文ほか			【事前】 指示された予習と復習課題に取り組む 【事後】 小テスト準備12、漢字語句小テスト第十二回範囲						
第13回	児童文学・児童 文化への理解を 深める	○児童文化について ～人形劇、絵本など			【事前】 指示された予習と復習課題に取り組む 【事後】 小テスト準備13、漢字語句小テスト第十三回範囲					
第14回		○児童文学とは何か ～宮沢賢治を中心に			【事前】 指示された予習と復習課題に取り組む 【事後】 小テスト準備14、漢字語句小テスト第十四回範囲					
第15回	○まとめ ～自らの言葉を会得し、自己の世界を広げる			【事前】 【事後】						
【学生に対する評価】 (1) 定期試験55% (2) 課題・提出物30% ～①毎時間の小テスト(常用漢字)、②課題への取り組み ほか (3) 授業への参加態度・姿勢、質問や発表(15%) (4) これら以外に加点するもの ①読書や展覧会レポート ②課題の出来 ③その他										

【テキスト】 (1) 「保育の基本用語」改訂2版(長嶋和代編 わかば社) (2) 「保育のマナーと言葉」改訂2版(同左) (3) 担当者作成プリント
【参考書・参考資料等】
【学生へのメッセージ】 (1) 課題については、每次初めに、解説や友人間での回覧や発表、紹介などを行う。 (2) 毎時行う漢字語句小テストについては、合格点を設ける。不合格の場合はやり直しを提出すること。 また、全13回の平均点が75%を超えた場合には、上記【学生に対する評価】の(4)加点の対象とする。 (3) 自らの世界を広げるため、読書や展覧会、優れたTV・ラジオ番組の視聴、家事労働や地域活動等に積極的に取り組み、レポートを提出のこと。上記【学生に対する評価】の(4)加点の対象とする。
【備考】
【担当教員の連絡先】 学校専用E-mail;shin@tohaya.ac.jp

授 業 科目名	教職概論	担 当 教員名	四海 飛鳥	単位数	2	授業 区分	講義	開講 時期	1年後期
【授業の到達目標及びテーマ】									
①教職の意義、役割、使命について理解し述べるができる。 ②学校(幼稚園・小学校・中学校・高等学校)の組織・運営及び教員の職務内容について理解できる。 ③教員の服務について、その具体的内容を述べるができる。 ④幼稚園教諭の職務の概要を理解できる。									
【授業の概要】									
教育職員免許状(本校では幼稚園教諭免許状)取得のための必修科目であり、幼稚園教諭に限らず、小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭、特別支援学校教諭の免許状取得の入門科目である。このため、幼稚園から高等学校に至る幼児・初等・中等教育に携わる教員の職務・服務・生活実態などについて詳細に説明する。このことによって、教員という職業の具体的内容が理解できるようなることを目標とする。									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	オリエンテーション 授業概要の説明、調査				【事前】 必ず教科書を購入しておくこと。				
					【事後】 講義プリントの内容に目を通しておくこと。				
第2回	教職の意義				【事前】 テキストの該当箇所を予習しておくこと。				
					【事後】 授業の復習を行うこと。				
第3回	教員の仕事 その①				【事前】 テキストの該当箇所を予習しておくこと。				
					【事後】 授業の復習を行うこと。				
第4回	教員の仕事 その②				【事前】 テキストの該当箇所を予習しておくこと。				
					【事後】 授業の復習を行うこと。				
第5回	教職に関するビデオ視聴				【事前】 テキストの該当箇所を予習しておくこと。				
					【事後】 授業の復習を行うこと。				
第6回	教員の仕事 その③				【事前】 テキストの該当箇所を予習しておくこと。				
					【事後】 授業の復習を行うこと。				
第7回	教員の任用と服務				【事前】 テキストの該当箇所を予習しておくこと。				
					【事後】 授業の復習を行うこと。				
第8回	教員の身分と勤務条件				【事前】 テキストの該当箇所を予習しておくこと。				
					【事後】 授業の復習を行うこと。				
第9回	教員の職場環境 その①				【事前】 テキストの該当箇所を予習しておくこと。				
					【事後】 授業の復習を行うこと。				
第10回	教員の職場環境 その②				【事前】 テキストの該当箇所を予習しておくこと。				
					【事後】 授業の復習を行うこと。				
第11回	教職に関するビデオ視聴				【事前】 テキストの該当箇所を予習しておくこと。				
					【事後】 授業の復習を行うこと。				
第12回	教員の資質向上と研修 その①				【事前】 テキストの該当箇所を予習しておくこと。				
					【事後】 授業の復習を行うこと。				
第13回	教員の資質向上と研修 その②				【事前】 テキストの該当箇所を予習しておくこと。				
					【事後】 授業の復習を行うこと。				
第14回	教職に関するビデオ視聴				【事前】 テキストの該当箇所を予習しておくこと。				
					【事後】 授業の復習を行うこと。				
第15回	まとめ 考査対策				【事前】 テキストの該当箇所を予習しておくこと。				
					【事後】 考査の勉強を行うこと。				
【学生に対する評価:各評価項目については評価割合(%)を含む】									
受講態度30%、考査70%の総合評価									

【テキスト及び参考書】

教科書 佐藤晴雄『教職概論 第6次改訂版』学陽書房
講義プリント・資料プリントを配布する。
参考書は授業中に適宜、紹介する。

【学生へのメッセージ】

幼稚園教員に限らず、広く学校教員の職務などについて説明していくので、小中学校や高等学校の教員の職務に関する内容が多く出てきますが、できるだけ平易に説明します。
また、具体的事例も多く取り入れ、実践的内容の授業にする予定です。

【備 考】

【担当教員の連絡先等】

学校専用E-mail: shin@tohaya.ac.jp

授 業 科目名	教育学概論	担 当 教員名	永添 祥多	単位数	1	授業 区分	講義	開講 時期	1 年 前期
【授業の到達目標及びテーマ】									
①現在の我が国が抱える教育課題について理解する。 ②幼児・児童・生徒を取り巻く諸課題について理解する。 ③教員を取り巻く諸課題について理解する。 ④教育問題について自分の意見を発表し、他の受講者との質疑応答を行うことができる。									
【授業の概要】									
現在の学校教育が抱える諸課題について理解するとともに、その解決策についても理解する。第一に、幼児・児童・生徒の問題として、不登校・いじめ・貧困家庭などの問題について各種資料を読みながら解説するとともに、受講者全員に意見を発表してもらい、他の受講者の質疑に対して応答してもらう。第二に、教員が抱える問題として、教員の多忙化や全国的な教員不足などの問題について、各種資料を読みながら解説するとともに、受講者全員に意見を発表してもらい、他の受講者の質疑に対して応答してもらう。									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第 1 回	オリエンテーション 授業概要の説明、調査				【事前】現在の教育課題について考えておく。				
					【事後】自分が興味関心を持った教員課題を調べる。				
第 2 回	幼児・児童・生徒を取り巻く教育課題 その1				【事前】不登校について調べておく。				
					【事後】不登校への対応策について自分の意見をまとめる。				
第 3 回	幼児・児童・生徒を取り巻く教育課題 その2 受講生による発表				【事前】発表用のレポートを作成しておく。				
					【事後】担当教員や他の受講生の指摘事項についてまとめておく。				
第 4 回	教員を取り巻く教育課題 その1				【事前】教員の多忙化について調べておく。				
					【事後】教員の多忙化について自分の意見をまとめておく。				
第 5 回	教員を取り巻く教育課題 その2 受講生による発表				【事前】発表用のレポートを作成しておく。				
					【事後】担当教員や他の受講生の指摘事項についてまとめておく。				
第 6 回	教員を取り巻く教育課題 その3				【事前】教員不足について調べておく。				
					【事後】教員不足について自分の意見をまとめておく。				
第 7 回	教員を取り巻く教育課題 その4 受講生による発表				【事前】発表用のレポートを作成しておく。				
					【事後】担当教員や他の受講生の指摘事項についてまとめておく。				
第 8 回	『幼稚園教育要領』について				【事前】『幼稚園教育要領』を事前に読んでおく				
					【事後】試験に向けてプリントを整理する。				
【学生に対する評価】									
受講態度20%、考査80%の総合評価									
【テキスト及び参考書】									
テキストは使用しない。講義プリント・資料プリントを配布する。 参考文献は授業中に適宜、紹介する。									
【学生へのメッセージ】									
第1回に配布する講義プリントの冊子は毎回必ず持参すること。資料プリントは毎回配布する。 幼児教育だけにとどまらず、広く我が国の教育制度の中で捉えていくので、小中学校や高等学校についても多く触れていく。質問は大歓迎です。わからない箇所はそのままにせず、積極的に質問してください。									
【備 考】									
【担当教員の連絡先等】									
学校専用E-mail:shin@tohaya.ac.jp									

授 業 科目名	教育制度学	担 当 教員名	永添 祥多	単位数	1	授業 区分	講義	開講 時期	1 年 前期
【授業の到達目標及びテーマ】 ①近代～現代に至る、教育制度の歴史的変遷の概要を理解する。 ②文部科学省や教育委員会の組織や運営についてもその概要を理解する。 ③教育行政に係わる重要な答申を行った臨時教育審議会や中央教育審議会について、その役割や意義、重要答申について理解する。 ④幼稚園と保育所(園)の違い、認定こども園について各々の制度的内容について理解する。									
【授業の概要】 我が国の教育制度の基本的構造の概要について説明する。第一に、戦前の教育制度について、その概要を説明するとともに、太平洋戦争の敗戦によるアメリカ軍の占領によって教育制度の大変革が行われて現在に至る歴史的過程についても説明する。第二に、現代の教育制度に大きな影響を与えた臨時教育審議会や中央教育審議会についてその概要を説明する。第三に、文部科学省や教育委員会といった教育行政組織についてその概要を説明する。第四に、幼児教育制度に係わって、幼稚園・保育所(園)・認定こども園の制度的違いや特色について説明する。									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第 1 回	オリエンテーション 授業概要の説明、調査				【事前】 教育制度とはどのようなものであるのかを考えておく。				
					【事後】 我が国の教育制度の特色とは何であるのかを考えておく。				
第 2 回	教育行政と教育制度について				【事前】 我が国の教育制度の特色について調べておく。				
					【事後】 我が国の教育制度の特色を具体的に理解しておく。				
第 3 回	戦前の教育制度の変遷				【事前】 戦前の我が国の教育制度について調べておく。				
					【事後】 戦前と現代の教育制度の違いについて考える。				
第 4 回	太平洋戦争の敗戦によるアメリカ軍の日本占領と戦後教育改革				【事前】 アメリカ軍の日本占領による教育改革について調べておく。				
					【事後】 戦後教育改革と現代の教育制度について考える。				
第 5 回	戦後の新しい教育制度				【事前】 幼稚園から大学までの学校制度について調べておく。				
					【事後】 現代の教育制度の特色について理解する。				
第 6 回	中央教育審議会と臨時教育審議会				【事前】 文部科学省の審議会について調べておく。				
					【事後】 審議会答申が文部行政に与えた影響について理解する。				
第 7 回	文部科学省と教育委員会				【事前】 文部科学省と教育委員会について調べておく。				
					【事後】 文部科学省と教育委員会の役割について理解する。				
第 8 回	幼稚園・保育所(園)・認定こども園の制度的特徴				【事前】 幼稚園・保育所(園)・認定こども園について調べておく。				
					【事後】 各組織の制度的特色について理解する。				
【学生に対する評価】 受講態度30%、考査70%の総合評価									
【テキスト及び参考書】 テキストは使用しない。講義プリント・資料プリントを配布する。 参考文献は授業中に適宜、紹介する。									
【学生へのメッセージ】 第 1 回に配布する講義プリントの冊子は毎回持参すること。資料プリントは毎回配布する。 幼児教育制度だけにとどまらず、広く我が国の教育制度について対象とした授業を行う。 理解を深めるため、DVDの視聴を頻繁に行う。									
【備 考】									
【担当教員の連絡先等】 学校専用E-mail:shin@tohaya.ac.jp									

授 業 科目名	教育心理学	担 当 教員名	米光 真由美	単位数	2	授業 区分	講義	開講 時期	1年 前期
【授業の到達目標及びテーマ】									
乳幼児とよりよく接するために、知覚、記憶・思考、言語、知能、学習、感情、発達、適応の人間心理の基礎を学び、その知識を基に人間の行動・性格・情緒の理解に繋げる。また心理学を学ぶことは学生自身が自己理解につながる学習であり、自己の不適応状態をより良く回避できる方法を習得する。									
①子どもの発達を理解し、保育現場で教育・保育の効果を高めるために教育心理学の知識を身につける									
②仲間と学ぶことを通してコミュニケーション力の向上を目指す									
【授業の概要】									
教育心理学は、学習、発達、評価、適応の4つの領域からなる。授業では、乳幼児への基本的な関わり方、理解のしかたについて、広く人間理解を促す授業を行う。乳幼児が生き生きと主体的に学ぶことを支えるために、乳幼児期を中心に子どもの発達及び学ぶ過程と学ぶ意欲の理解をテーマとする。グループ討議を導入することで、知識の習得はもちろんのこと、主体的・協同的な学びにより学生自身が学ぶ喜びを感じ、互いに伝え合う力の向上を目指す。なお、進行状況により授業計画を変更することもある。									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	オリエンテーション (授業内容の説明)	【事前】 シラバスを読んでくこと							
		【事後】 授業内容について理解を深めること							
第2回	教育心理学の意義	【事前】 テキストを読み、予習すること							
		【事後】 授業内容について理解を深めること							
第3回	教育心理学の方法	【事前】 テキストを読み、予習すること							
		【事後】 提示した課題をまとめる(事例検討)							
第4回	子どもの発達理解 (グループ討議)	【事前】 発表(口頭、プレゼンテーション)の準備							
		【事後】 授業内容について理解を深めること							
第5回	発達の变化について ①	【事前】 テキストを読み、予習すること							
		【事後】 授業内容について理解を深めること							
第6回	発達の变化について ②	【事前】 配布資料を読み、予習する							
		【事後】 授業内容について理解を深めること							
第7回	人格発達論	【事前】 テーマの予習する							
		【事後】 配布したスライド資料をまとめる							
第8回	発達障害	【事前】 テキストを読み、予習すること							
		【事後】 授業内容について理解を深めること							
第9回	障がい児支援 (グループ討議)	【事前】 発表(口頭・プレゼンテーション)の準備							
		【事後】 授業内容について理解を深めること							
第10回	脳・心・記憶	【事前】 配布資料を読み、予習する							
		【事後】 授業内容について理解を深めること							
第11回	子どものストレス・親のストレス	【事前】 テーマの予習する							
		【事後】 授業内容について理解を深めること							
第12回	やる気を促す保育 (動機づけ)	【事前】 配布資料を読み、予習する							
		【事後】 配布したスライド資料をまとめる							
第13回	子どもの心理臨床 (事例検討会)	【事前】 グループワークショップ課題を確認すること							
		【事後】 授業内容について理解を深めること							
第14回	教師支援	【事前】 テキストを読み、予習すること							
		【事後】 授業内容について理解を深めること							
第15回	まとめ	【事前】 テーマの予習する							
		【事後】 保育者として子ども理解と対応のまとめ							
【学生に対する評価】									
提出物や受講態度(40%)、定期試験(60%)を総合評価									

【テキスト及び参考書】 テキスト 教科書は指定せず、配布プリントを中心に授業をします。プリントを各自で整理・保管すること。 参考書 「保育のためのやさしい教育心理学」ナカニシヤ出版 「保育所保育指針」（平成29年3月告示 厚生労働省）（フレーベル館） 「発達心理学」ナツメ社出版 「新発達と教育の心理学」福村出版
【学生へのメッセージ】 仲間と学ぶにはチームメンバー一人ひとりが参加することが大切になります。自己理解を深め、自分の言葉で自己表現をするように心がけて、積極的に発言してください。 グループ討議・事例検討会を入れながら、共に考えていきます。
【備 考】 授業時間外に予習課題や発表準備を課すことがあります。基本は復習、課題が出た時には予習をすることが必要です。
【担当教員の連絡先等】 学校専用E-mail : shin@tohaya.ac.jp

授 業 科目名	教育課程総論	担 当 教員名	矢野 洋子	単位数	2	授業 区分	講義	開講 時期	1年 後期
【授業の到達目標及びテーマ】 (1) 教育課程の意義 幼稚園教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解する。 1) 幼稚園教育要領の内容理解に努め、幼児の発達を考慮した教育課程編成の目的を理解している。 2) 幼稚園教育要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景を理解している。 3) 教育課程が地域の実態や社会において果たしている役割や機能を理解している。 (2) 教育課程の編成の方法 教育課程編成の基本原理及び子どもや地域の実態を踏まえ教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。 1) 教育課程編成の基本原理を理解している。 2) 教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を例示することが出来る等対応力を身に付ける。 3) 学期・年齢をまたいだ長期的な視野から、また、幼児、地域の実態、保護者や地域の願い等を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性を理解している。 (3) カリキュラム・マネジメント 教科・領域・各年齢をまたいでカリキュラムを把握し幼稚園教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。 1) 幼稚園教育要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解している 2) カリキュラム評価（より良い学びにつなげるため）の基礎的な考え方を理解している。									
【授業の概要】 幼稚園教育要領を基準として各幼稚園において編成される教育課程について保育の全体計画であることや質に関わる重大な課題であること等捉えさせ、その意義や編成の方法を理解するとともに、各幼稚園の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	オリエンテーション・保育で重視していること。				【事後】保育がつく言葉探しをする。（ICT活用）p 2～p 9 復習する。				
第2回	幼児教育の基本 (保育内容の歴史的変遷と現代の保育について)				【事前】副読本 保育とは何かを読んで理解する。副 p10～p18				
					【事後】本日学んだことを復習し、教科書 p 13～p 28 大事な箇所を押える。				
第3回	幼稚園教育の基本 序章 第1節 改定の基本的な考え方 2 改訂の要点				【事前】幼稚園教育要領解説 序章を読む。P2～p9				
					【事後】振り返りをする。				
第4回	幼稚園教育の基本 3 幼稚園教育の基本に関連して重視する事項 (1) 幼児期にふさわしい生活の展開 (2) 遊びを通しての総合的な指導 (3) 一人一人の発達の特性に応じた指導				【事前】幼稚園教育要領解説 p10～p40				
					【事後】授業の振り返りとともに、5 領域を押え、覚える。 (振り返り)				
第5回	幼稚園教育の基本 幼稚園教育要領解説 3 幼稚園教育の基本に関連して重視する事項 4 計画的な環境の構成 5 教師の役割				【事前】幼稚園教育要領解説 p33～p 49				
					【事後】授業の振り返り 領域の押さえ				
第6回	幼稚園教育の基本 幼稚園教育要領解説 p96～p 109 指導計画の考え方 2 指導計画作成上の基本的事項 3 指導計画作成上の留意事項				【事前】教科書1節を読み、大事な箇所にアンダーラインを引く。				
					【事後】授業の振り返り 副読本 p27～p36 「教育課程」・「全体的な計画」から「指導計画」へを読み授業理解を深める。				
第7回	教科書 第1章 幼児教育の基本と教育課程 p2～p10				【事前】教科書を読み、幼稚園教育について理解する。				
					【事後】授業の振り返り及び、副読本第3章をまとめる。				
第8回	教科書 第3章 1節 幼児のあそび 2節 あそびのなかでの学び 3節 幼稚園と小学校の連携				【事前】あそびのと学び 第3章を読む。教科書p30～p42				
					【事後】授業の振り返り 副読本 第3章を読む。				
第9回	あそびと学び（DVDを通しての考察・グループワーク）副読本 第3章 幼稚園の理解 p37～p66				【事前】保育における「あそび」について読む。				
					【事後】DVD 振り返り 「幼稚園教育要領解説」を読む。（第1章3節）				
第10回	発達の理解と教育課程の編成 (発達を理解することの重要性について)				【事前】教科書第5章を読む。特に保育者の発達観、保育観を理解する。				
					【事後】授業の振り返り より深い発達理解のためにをまとめる。				
第11回	特色ある幼稚園づくりと教育課程				【事前】教科書第6章を読む。副読本第3章の2を読んで理解する。				
					【事後】授業の振り返り とくに指導計画と教育課程の関係をまとめる。				
第12回	教育課程の評価・改善（実施されたその内容及びその成果と課題迄カリキュラムに含まれることの理解）				【事前】教科書第7章を読む。PDCAサイクルについて理解を深める。				
					【事後】授業の振り返り 副読本第3章のワークをする				
第13回	幼稚園における教育課程編成の実際を中心にグループワークにて行う				【事前】教科書第8章を読む。副読本発表箇所をまとめる。				
					【事後】副読本グループ発表の役割分担箇所を分かりやすくまとめる。				
第14回	幼稚園における教育課程編成の実際を中心にグループディスカッションにて行い、まとめ→発表				【事前】プレゼンの方法を研究し、伝わりやすい内容にする。				
					【事後】プレゼンの振り返りを行う。				
第15回	時代の変化と新たな保育内容及びまとめ				【事前】教科書第10章、第11章を読む。興味のある内容をまとめる。				
					【事後】15回の授業内容を振り返る。				

【学生に対する評価】 定期試験（70％） 予習・復習 小テスト（10％）授業への取り組み（20％）等による総合評価	
【テキスト及び参考書】 「教育課程総論」（北大路書房） 平成21年3月 「幼稚園教育要領」(平成29年3月告示 文部科学省)（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)(フレーベル館) 「幼稚園教育指導資料第1集 指導計画の作成と保育の展開」（フレーベル館） 「教育課程・保育の計画と評価」 ―書いて学べる指導計画― 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）	
【学生へのメッセージ】 教育課程を編成するにあたっては、幼稚園教育要領及び幼稚園教育要領解説に書かれている内容に日頃から触れていきましょう。また、育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や5領域は特に、頭に入れていきましょう。	
【備 考】 必ず、予習・復習をしておくこと。毎時間の確認は小テストや振り返りプリントで行う。 面倒がらずに細めに学習すること。	
【担当教員の連絡先等】 担当教員E-mail:yano@tohaya.ac.jp	
学校専用E-mail:	

授 業 科目名	幼児と健康	担 当 教員名	高西 敏正	単位数	1	授業 区分	演習	開講 時期	1年 後期
【授業の到達目標及びテーマ】 (1) 幼児期の健康課題と健康の発達の意味を理解する。 1) 乳幼児期の心と体、運動発達などの健康課題を説明できる。 2) 健康の定義と乳幼児期の健康の意義を説明できる。 (2) 幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成を理解する。 1) 乳幼児の体の発達の特徴を説明できる。 2) 乳幼児の基本的な生活習慣の形成とその意味を説明できる。 (3) 安全な生活と怪我や病気の予防を理解する。 1) 幼児の安全教育・健康管理に関する基本的な考え方を理解している。 2) 幼児期の怪我の特徴や病気の予防について説明できる。 3) 危険に関しリスクとハザードの違いと安全管理を理解している。 (4) 幼児期の運動発達の特徴と意義を理解する。 1) 乳幼児の運動発達の特徴を説明できる。 2) 幼児期において多様な動きを獲得することの意義を理解している。 3) 日常の生活における幼児の動きの経験やその配慮など身体活動の在り方を説明できる。									
【授業の概要】 健康な心と体を育み、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導の基礎となる知識・技能を身に付ける。具体的には幼児の心身の発達、基本的生活習慣、安全な生活、運動発達等において、幼児期には大人と違った特徴や意義があることを踏まえ、その相違が指導法にも関連していることについて理解する。									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	オリエンテーション				【事前】 シラバスを読んで内容を理解しておく				
					【事後】 本時間の復習に取り組む。				
第2回	「健康」について				【事前】 指示されている予習に取り組む。				
					【事後】 本時間の復習に取り組む。				
第3回	領域「健康」と今日的課題				【事前】 指示されている予習に取り組む。				
					【事後】 本時間の復習に取り組む。				
第4回	健康観の変遷と健康施策				【事前】 指示されている予習に取り組む。				
					【事後】 本時間の復習に取り組む。				
第5回	子どもの発育発達と健康				【事前】 指示されている予習に取り組む。				
					【事後】 本時間の復習に取り組む。				
第6回	子どもの生活と健康				【事前】 指示されている予習に取り組む。				
					【事後】 本時間の復習に取り組む。				
第7回	子どもの心と体の健康				【事前】 指示されている予習に取り組む。				
					【事後】 本時間の復習に取り組む。				
第8回	子ども食と健康				【事前】 指示されている予習に取り組む。				
					【事後】 本時間の復習に取り組む。				
第9回	安全管理と安全教育				【事前】 指示されている予習に取り組む。				
					【事後】 本時間の復習に取り組む。				
第10回	運動指導プログラム ①立案・ねらいの設定				【事前】 指示されている予習に取り組む。				
					【事後】 本時間の復習に取り組む。				
第11回	運動指導プログラム ②プログラム作成				【事前】 指示されている予習に取り組む。				
					【事後】 本時間の復習に取り組む。				
第12回	運動指導プログラム ③予行会				【事前】 指示されている予習に取り組む。				
					【事後】 本時間の復習に取り組む。				
第13回	運動指導プログラム ④指導案作成				【事前】 指示されている予習に取り組む。				
					【事後】 本時間の復習に取り組む。				

第14回	運動指導プログラム ⑤発表会	【事前】 指示されている予習に取り組む。
		【事後】 本時間の復習に取り組む。
第15回	まとめ・振り返り	【事前】 指示されている予習に取り組む。
		【事後】 本時間の復習に取り組む。
【学生に対する評価】 授業への取り組み・態度（70％） レポート・発表（30％）等による総合評価		
【テキスト及び参考書】 ◎授業プリント配布 ○「幼稚園教育要領解説」(平成30年3月告示 文部科学省)（フレーベル館） ○「保育所保育指針解説」(平成30年3月告示 厚生労働省)（フレーベル館） ○「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(平成30年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館）		
【学生へのメッセージ】 幼稚園教育要領や保育所保育指針、教育・保育要領のガイドラインを正しく理解しましょう。また、子どもの健康についての理解を深め、自分自身の健康も振り返る眼差しがもてるようになることを願っています。授業では課題や復習のプリントを配布しますので毎時予習と復習を行うこと。健康とは何かをテーマに一緒に学びましょう。		
【備 考】		
【担当教員の連絡先等】 担当教員E-mail:takanishi@tohaya.ac.jp 学校専用E-mail:		

授 業 科目名	幼児と人間関係	担 当 教員名	爪 田 寿子	単位数	1	授業 区分	演習	開講 時期	1年 前期
【授業の到達目標及びテーマ】 目標及び内容 (1) 子どもを取り巻く環境における様々な人間関係について理解する。 1) 子どもを取り巻く人間関係の社会的背景を理解している。 2) 人と関わる力の育ちがその後に続く生きる力となることを理解している。 指導方法と授業設計 (2) 子どもが人と関わる力を身につけていく過程や発達の姿を、関係発達論の視点から理解する。 1) 乳児期に育つ人と関わる力の発達について、養育する大人の中での育ちであると理解している。 2) 幼児期に育つ人と関わる力の発達について、保育者との関係、友達との関係、集団の中での育ちであると理解している。 3) 社会性の習得とともに子どもの自立心が育つことを理解している。 4) 社会性の習得とともに子どもの協同性が育つことを理解している。 5) 社会性の習得とともに道徳や規範意識が芽生えることを理解している。 6) 家族や地域、保育施設との関わりと育ちについて子どもの発達に合わせて理解している。									
【授業の概要】 領域「人間関係」について幼児教育で保障すべき教育内容を総合的に学ぶ。子どもは生活全体を通じて人と関わることを喜び、人を信頼し様々な葛藤を乗り越えながら人間関係を広げてゆく。子どもの人間関係の育ちに影響を与えている現代の社会的背景を理解し、人と関わる力の基礎について知識を習得する。領域「人間関係」の指導の基礎理論として、関係発達論の視点について5領域すべてに関連付け学び、他者との関係や集団との関係の中で人と関わる力が育つことを理解する。									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	現代社会と子どもの人間関係 ～保育内容としての人間関係～				【事前】シラバスに目を通しておく				
					【事後】該当箇所を見直す				
第2回	幼稚園教育要領及び保育所保育指針における領域「人間関係」について ～人間関係と保育実践～				【事前】保育所保育指針該当部分を読む				
					【事後】該当箇所を見直す				
第3回	保育者との信頼関係 ～子どもの育ちに沿った環境構成を考える～				【事前】保育所保育指針該当箇所を読む				
					【事後】該当箇所を見直す				
第4回	子どもの自立心の育ち ～子どもの集団生活～				【事前】配布事例を読む				
					【事後】該当箇所を見直す				
第5回	子どもの協同性の育ち ～仲間との関わり～				【事前】配布事例を読む				
					【事後】該当箇所を見直す				
第6回	道徳性、規範意識の芽生えと育ち ～子どもの社会化～				【事前】配布事例を読む				
					【事後】該当箇所を見直す				
第7回	子どもの人間関係のひろがり ～子どもと遊び～				【事前】配布事例を読む				
					【事後】該当箇所を見直す				
第8回	遊びと保育者の援助 ～仲間同士の関わりの中で決まりを作る～				【事前】保育所保育指針及び配布資料を読む				
					【事後】該当箇所を見直す				
第9回	集団活動の中で育ちあう保育 ～グループ活動での立場、役割～				【事前】教科書該当箇所を読む				
					【事後】該当箇所を見直す				
第10回	行事のねらいと活動内容 ～協同的活動の長期的、短期的計画～				【事前】教科書該当箇所を読む				
					【事後】該当箇所を見直す				
第11回	小学校との交流活動を考える ～小学校へのスムーズな移行と人間関係～				【事前】教科書該当箇所を読む				
					【事後】該当箇所を見直す				
第12回	地域の中の幼稚園・保育所 ～豊かな経験となる地域の人との関わり～				【事前】教科書該当箇所を読む				
					【事後】該当箇所を見直す				
第13回	子どもが多様な人との関わりの中で豊かに生きることを考える ～長期的な計画と保育者の援助を考える～				【事前】教科書該当箇所を読む				
					【事後】該当箇所を見直す				

第14回	就学までに育みたい資質・能力と人間関係 ～コミュニケーションの基本的要素～	【事前】教科書該当箇所を読む
		【事後】該当箇所を見直す
第15回	領域「人間関係」における現代社会の問題 ～これからの社会を生きる力を育てる～	【事前】教科書該当箇所を読む
		【事後】該当箇所を見直す
【学生に対する評価】 定期試験（60％）レポートの提出（20％）授業への取り組み（20％）等による総合評価		
【テキスト及び参考書】 新保育ライブラリ「保育内容 人間関係 保育の内容・方法を知る」（小田 豊・奥野正義 編著）（北大路書房） 「幼稚園教育要領」(平成29年3月告示 文部科学省)（フレーベル館） 「保育所保育指針」(平成29年3月告示 厚生労働省)（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館） 生活事例からはじめる ー保育内容ー 人間関係 （青鞆社） 最新保育講座 保育内容「人間関係」（ミネルヴァ書房） 保育内容 人間関係 あなたならどうしますか？（萌文書林）		
【学生へのメッセージ】 事前にテキストをよく読み、予習をしてください。可能な限り、日頃から乳幼児と関わる体験に積極的であることを期待します。		
【備 考】		
【担当教員の連絡先等）		
学校専用E-mail : shin@tohaya.ac.jp		

授 業 科目名	幼児と環境	担 当 教員名	原賀 いずみ	単位数	1	授業 区分	演習	開講 時期	1 年 後期
【授業の到達目標及びテーマ】									
(1) 幼児を取り巻く環境と、幼児の発達についての意義を理解する。 1) 幼児を取り巻く環境の諸側面(物的環境、人的環境、社会的環境、安全等)と、幼児の発達におけるそれらの重要性について説明できる。 2) 幼児の環境との関わり方について専門的概念(能動性、好奇心、探究心、有能感等)を用いて説明できる。 3) 知識基盤社会及び持続可能な開発のための教育(ESD)などの現代的課題と幼児期における身近な環境と関わることの意義について説明できる。									
(2) 幼児期の思考・科学的概念の発達を理解する 1) 乳幼児期の認知的発達の特徴と筋道を説明できる。 2) 乳幼児の数量・図形等と関わる事象に対する興味・関心や関わり方などを通して子どもの発達を説明できる。 3) 乳幼児の生物・自然等と関わる事象に対する興味・関心や関わり方などを通して子どもの発達を説明できる。									
(3) 幼児期の標識・文字等、情報・施設との関わりの発達を理解する。 1) 乳幼児を取り巻く標識・文字等の関わりと、それらへの興味・関心、それらとの関わり方を説明できる。 2) 乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方について説明できる。 3) 幼児の発達における児童文化財の意義について理解する。									
【授業の概要】									
領域「環境」の指導で必要となる感性を養い、教育内容に関する知識・技術を身に付ける。特に領域「環境」の指導の基盤となる、現代の幼児を取り巻く環境とその現代的課題、幼児と身近な環境との関わりの発達等について学ぶ。									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	SDGsフォトランゲージで語り合おう 子どもの遊びのねらいと保育者の配慮について				【事前】教科書の準備				
第2回	保育と環境の理解(1章)				【事後】講義の振り返りをまとめる				
第3回	領域環境の捉え方と考え方(2章) 領域のねらいと内容 ポスター				【事前】範囲内教科書を通読しておく				
第4回	領域環境の捉え方と考え方(2章) 領域のねらいと内容 ポスター作り				【事後】講義の振り返りをまとめる				
第5回	ポスター発表と年齢別の違い・秋の図鑑・秋の レストランづくり				【事前】ポスターの完成				
第6回	領域のねらいと内容の比較をグループで紹介する 豊かな生活を育む環境をデザインする(5章)				【事後】ポスターの鑑賞と違いの分析・語り合い				
第7回	豊かな生活を育む環境をデザインする(5章) 人的環境について考える。				【事前】教科書を通読しておく				
第8回	豊かな生活を育む環境をデザインする(5章) 物的環境				【事後】地域社会の特徴を調べる				
第9回	保育と自然(6章) どんぐりの学び				【事前】範囲内教科書を通読しておく				
第10回	どんぐりの種類・どんぐりの森の働き・どんぐりの 芽生え・絵本の紹介				【事後】講義の振り返りをまとめる				
第11回	葉っぱ遊び・葉っぱの擦り出し				【事前】どんぐりを集めておく				
第12回	自然素材を使ったネイチャークラフト				【事後】葉っぱを使って自然遊びを楽しむ				
第13回	発達段階に応じた遊び環境とおもちゃ調べの まとめ				【事後】葉っぱそびの写真を記録しておく				
第14回	日常生活の中の数字や図形(7章) 世界の国の数 を調べよう				【事前】自然素材を使って遊ぶ				
第15回	環境構成としての絵本調べ				【事後】動物やどんぐり転がしをつくる				
第16回	自然環境・社会環境に関心を持つ(6・7章) 行事調べ				【事前】おもちゃのプリントを読んでおく				
第17回	北九州市おもちゃライブラリーの取り組みとおもちゃと 子どもの発達について				【事後】発達段階に応じた遊び環境とおもちゃ調べのまとめ				
第18回					【事前】外国の数字や挨拶について関心を持つ				
第19回					【事後】外国の数字や挨拶について調べ、まとめる				
第20回					【事前】環境絵本を知る				
第21回					【事後】一押しブックカードを作る				
第22回					【事前】範囲内教科書を通読しておく				
第23回					【事後】講義の振り返りをまとめる				
第24回					【事前】範囲内教科書を通読しておく				
第25回					【事後】講義の振り返りをまとめる				
第26回					【事後】振り返りシートに授業感想等を記入する				
保育内容環境(第3版) 秋田喜代美:編著 みらい									
「幼稚園教育要領」(平成29年3月告示 文部科学省) (フレーベル館)									
「保育所保育指針」(平成29年3月告示 厚生労働省) (フレーベル館)									
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)(フレーベル館)									
「はる・なつ・あき・ふゆ」の図鑑(フレーベル館)									

【学生へのメッセージ】 「環境」の領域の教科書を中心に、グループワークを取り入れながら、適切な援助を行うことができるように一人	
【備 考】	
【担当教員の連絡先等】	学校専用E-mail: shin@tohaya.ac.jp

授 業 科目名	幼児と言葉	担 当 教員名	柴田 康弘	単位数	1	授業 区分	演習	開講 時期	1 年 後期
【授業の到達目標及びテーマ】 現代社会における幼児の言語発達に係る実態や課題を把握し、幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらいを理解する。また専門領域に関する研究成果を踏まえ、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びを通して具体的な保育の場面を想定し、子どもたちの言葉を豊かに育てる基本的な実践的方法を身に付ける。 (1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。 1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 2) 領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が遊びを通して学び、身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 4) 領域「言葉」において、幼児が身に付けていく内容と小学校の教科等とのつながりを理解している。 (2) 幼児の言葉の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して基本的な実践方法を身に付ける。 1) 幼児の発達や興味、関心等に即した保育の重要性を理解している。 2) 領域「言葉」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の現場での実践に活用することができる。 3) 幼児の発達や学びを理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 4) 保育実践とその振り返りを通して、自らの保育を改善する視点を身に付けている。 5) 領域「言葉」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、自らの保育の質の向上に取り組むことができる。									
【授業の概要】 幼稚園教育要領「言葉」のねらい及び内容の基礎的内容について学ぶ。子どもの言葉の発達過程を理解し、具体的な指導を想定して言葉の育ちを促す保育教材の製作等を行う。また、授業で学んだことを活かし、附属幼稚園の幼児への「おはなし会」を行い、グループワークでの教材研究や模擬保育、終了後には振り返りを行い「コミュニケーション能力の育成」「子どもへの配慮・思いやり」「観察眼の育成」を目指す。									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	幼児教育の基本と領域「言葉」				【事前】テキストの指示された箇所を通読しておく				
					【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第2回	言葉を豊かにする保育環境				【事前】テキストの指示された箇所を通読しておく				
					【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第3回	言葉の発達を促す児童文化財 (紙芝居の実際)				【事前】テキストの指示された箇所を通読しておく				
					【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第4回	言葉の発達を促す児童文化財の実際 (「紙芝居」の教材研究・グループワーク)				【事前】紙芝居の実演の準備、練習				
					【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第5回	領域「言葉」のねらい及び内容の理解				【事前】幼稚園教育要領解説の指示された箇所を通読しておくこと				
					【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第6回	乳児期の「言葉」と他領域との関り				【事前】テキストの指示された箇所を通読しておく				
					【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第7回	言葉を育む環境と援助① (気になる子どもへの言葉の発達のサポート)				【事前】テキストの指示された箇所を通読しておく				
					【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第8回	言葉を育む環境と援助② (日本語を母語としない子どもへの関りを考える)				【事前】テキストの指示された箇所を通読しておく				
					【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第9回	子どもの言葉の世界を広げる言葉遊び				【事前】配布資料を通読しておくこと				
					【事後】手作りカルタ作りの制作				
第10回	5歳児の言葉を育てる指導の実際 (附属幼稚園「おはなし会」に向けて5歳児の幼児理解)				【事前】手作りカルタの発表準備				
					【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第11回	5歳児の言葉を育てる指導と指導計画 (「おはなし会」での指導案の作成、教材研究・グループワー				【事前】児童文化財の準備、配布資料の通読				
					【事後】グループワークの内容をもとに指導案の作成				
第12回	5歳児の言葉を育てる指導計画の構想 (「おはなし会」のシミュレーションと改善)				【事前】指導案の作成、シミュレーションの準備				
					【事後】シミュレーションを振り返り、指導案の改善				

第13回	5歳児の言葉を育てる指導計画の実践 (附属幼稚園交流授業「おはなし会」の実施)	【事前】「おはなし会」の準備、シミュレーション 【事後】「おはなし会」の振り返りと自己評価の記入
第14回	5歳児の言葉を育てる指導計画の実践の評価と改善 (附属幼稚園交流授業「おはなし会」の振り返り)	【事前】自己評価を発表できるように整理しておくこと 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成
第15回	まとめ：子どもの言葉を育み、豊かにする保育 (「言葉」をめぐる現代の課題をICTにて調べる)	【事前】配布資料を通読、ファイルをまとめ提出 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成
【学生に対する評価】 授業への取り組み（グループワーク・教材製作・模擬保育など）（30%）、授業レポート（授業の学びの振り返り（復習）と次回の授業に向けて（予習））（20%）定期試験（50%）等による総合評価		
【テキスト及び参考書】 <テキスト> 保育内容「言葉」太田光洋他（同文書院） 「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示 文部科学省）（フレーベル館） 「保育所保育指針」（平成29年3月告示 厚生労働省）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）（フレーベル館） <参考書・参考資料等> 「絵本は心のへその緒」松居直（NP0ブックスタート）		
【学生へのメッセージ】 授業では、資料も配布します。ファイルを準備してください。授業の初めには前回の授業の復習も行います。		
【備 考】		
【担当教員の連絡先等】 担当教員E-mail：shibata@tohaya.ac.jp 学校専用E-mail：		

授 業 科目名	幼児と表現（造形）	担 当 教員名	加来 栄治	単位数	1	授業 区分	演習	開講 時期	1 年 後期
【授業の到達目標及びテーマ】 （１） 幼児の表現の姿や、その発達を理解する。 1） 幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できる。 2） 表現を生成する過程について理解している。 （２） 「表現」領域と5領域のつながりに気づき、遊びと設定型の二つの場面で、より効果的に「表現」活動を支援できる保育の場を生み出すことができる。 1） 「表現」領域のひろがりにつながりに気づくことができる。 2） 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。 3） 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 4） 様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。									
【授業の概要】 本授業では、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて実践的に学び、幼児期の表現活動を支援するための知識・技能、表現力を身に付けることを目標としている。幼児の表現を理解するためには、保育者自身が十分に感性を働かせて表現活動を楽しむことが重要であり、造形表現に苦手意識のある学生も、自ら手を動かし、感じることから始めたい。楽しさを感じられるようになれば、研究心も高まり、幼児の表現への理解や学びも深まっていく。また、他者の表現に興味・関心をもち、互いの表現について受け止め合い、伝え合うことを通して、幼児の表現が生まれる過程に連動させ考察していく。									
【授業計画】				【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】					
第1回	オリエンテーション 表現とは一領域「環境」と「言葉」のつながりについての考察	【事前】「保育をひらく造形表現」を読みイメージを膨らませる。							
		【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する							
第2回	オペレッタについて	【事前】 クラスの役割分担を基に準備内容を把握する。							
		【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する。							
第3回	オペレッタについて	【事前】 クラスの役割分担を基に準備内容を把握する。							
		【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する。							
第4回	手作り玩具①	【事前】 事前告知の活動内容を基にイメージを膨らませる。							
		【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する。							
第5回	手作り玩具②	【事前】 事前告知の活動内容を基にイメージを膨らませる。							
		【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する。							
第6回	手作り玩具③	【事前】 事前告知の活動内容を基にイメージを膨らませる。							
		【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する。							
第7回	手作り玩具④	【事前】 事前告知の活動内容を基にイメージを膨らませる。							
		【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する。							
第8回	保育室の環境構成（壁面制作）①	【事前】 事前告知の活動内容を基にイメージを膨らませる。							
		【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する。							
第9回	保育室の環境構成（壁面制作）②	【事前】 グループで話し合い壁面制作の内容を決める。							
		【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する。							
第10回	保育室の環境構成（壁面制作）③	【事前】 グループで協力して壁面制作の準備をする。							
		【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する。							
第11回	保育室の環境構成（壁面制作）④	【事前】 グループで協力して壁面制作を進める。							
		【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する。							
第12回	保育室の環境構成（壁面制作）⑤	【事前】 グループで協力して壁面制作を進める。							
		【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する。							
第13回	お店屋さんごっこの取り組み①	【事前】 事前告知の活動内容を基にイメージを膨らませる。							
		【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する。							
第14回	お店屋さんごっこの取り組み②	【事前】 グループで協力して制作を進める。							
		【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する。							
第15回	授業のまとめ	【事前】 授業の内容を各自をまとめる。							
		【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する。							
【学生に対する評価】 毎回の作品やワークシート提出（50%）、レポート提出（20%）、グループワークを含めた授業への積極的な取り組み（20%）、授業のための資料や材料収集、アイデアスケッチ等の準備を含めた予習復習課題(10%)等による総合評価									

【テキスト及び参考書】 「保育をひらく造形表現」（槇 英子 著）萌文書林 授業中に適宜資料を配布する。 「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示 文部科学省）（フレーベル館） 「保育所保育指針」（平成29年3月告示 厚生労働省）（フレーベル館）	
【学生へのメッセージ】 ・鉛筆、のり、はさみ、カッターを、筆箱の中に常備しておいてください。 ・課題により上記以外の必要な道具や材料があれば、事前に伝えますので忘れないよう準備してください。 ・授業を心から楽しむために、絵の具等で汚れても良い服装(作業着エプロン着用可)で受講してください。 ・授業をより有意義なものにするために、あらかじめアイデアスケッチ等を予習・復習のための課題にすることがあります。	
【備 考】	
【担当教員の連絡先等】 担当教員E-mail：kaku@tohaya.ac.jp	
学校専用E－m a i l：	

授 業 科目名	幼児と表現（音楽）	担 当 教員名	石井 貴子	単位数	1	授業 区分	演習	開講 時期	1年 前期
【授業の到達目標及びテーマ】									
(1) 子どもの遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。									
(2) 身の回りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。									
(3) 様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。									
(4) 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、豊かな表現につなげていくことができる。									
【授業の概要】									
保育・幼児教育における音楽表現活動を理解に基づいて、領域「表現」のねらい及び内容について理解する。 また、サウンド・エデュケーションのエクササイズでは、環境音を意識的に聴き取ることを音楽活動の基礎と捉えて、サウンドマップづくりや紙を用いたアンサンブルを創作を行い、領域横断的な音楽表現活動を経験する。 さらに幼児の楽器とリズムの創作では、音楽づくりにおける他者との協働と合奏の指導方法について学習する。 子どもの音楽的発達については、視聴覚教材を用いて生活や遊びを通した子どもの表現活動について考察する。									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	オリエンテーション 授業の概要と進め方を理解する。	【事前】 シラバスを読み授業の概要を理解する。							
		【事後】 幼稚園教育要領等の領域「表現」を確認する。							
第2回	領域「表現」の捉え方 幼児教育における表現について理解する。	【事前】 幼児の音楽的発達の該当箇所を読む。							
		【事後】 領域「表現」のねらい及び内容を復習する。							
第3回	領域「表現」のねらい及び内容 幼稚園教育要領の領域「表現」を理解する。	【事前】 幼児の音楽的発達の該当箇所を読む。							
		【事後】 幼児の表現と環境との関わりについて整理する。							
第4回	乳幼児の発達と音楽表現活動（視聴覚教材） 遊びを通した子どもの音楽的表現を学ぶ。	【事前】 乳幼児音楽的発達について読む。							
		【事後】 乳幼児音楽的発達の特性とその過程を復習する。							
第5回	サウンド・エデュケーションのエクササイズ 環境音を意識的に聴く活動を体験する。	【事前】 サウンド・エデュケーションについて予習する。							
		【事後】 授業での具体的な課題内容を整理する。							
第6回	サウンドマップづくり 環境音を聴き取り可視化する。	【事前】 サウンド・エデュケーションについて調べる。							
		【事後】 保育の音環境について調べる。							
第7回	紙のアンサンブルの創作と発表 音を擬音語・擬態語で表して音素材とする。	【事前】 音楽を形づくっている要素について調べる。							
		【事後】 擬音語・擬態語の音楽的要素について考察する。							
第8回	リトミック教育の実践 声、緊張と弛緩、速さ、強弱等を体験する。	【事前】 教科書のリトミックの章を読む。							
		【事後】 音楽表現におけるリズムの重要性							
第9回	リトミック教育の理論 リトミック教育の目的と理論構成を学ぶ。	【事前】 リトミックの概要を調べる。							
		【事後】 保育現場でのリトミック活動の実際を調べる。							
第10回	子どもの楽器の奏法と音づくり 楽器を用いた音づくりと奏法の工夫を学ぶ。	【事前】 保育に用いられる楽器について予習する。							
		【事後】 楽器の音色づくりと音のイメージを整理する。							
第11回	楽器を用いた音楽遊び 楽器を用いた遊びの具体例を体験する。	【事前】 オスティナート、バッテリーリズムを予習する。							
		【事後】 乳幼児の発達に即した奏法を理解する。							
第12回	リズム創作と子どもの歌の編曲（グループワーク） オスティナート等によるリズム創作を行う。	【事前】 合奏活動に適した子どもの歌を調べる。							
		【事後】 楽曲構成を整理して創作したリズムを練習する。							
第13回	合奏の練習および発表（グループワーク） 合奏の練習及び発表を行う。	【事前】 グループでの担当について練習する。							
		【事後】 発達に合わせた楽器活動について意見をもつ。							
第14回	子どもの歌とコードネーム コードネームによる伴奏法と理論を学ぶ。	【事前】 ピアノテキストの子どもの歌を予習する。							
		【事後】 基本三和音とコードネームを練習する。							
第15回	ICTの活用と授業のまとめ 音楽表現活動でのICTの活用方法を考える。	【事前】 授業の内容を各自まとめる。							
		【事後】 自己課題を整理する。							
【学生に対する評価:各評価項目については評価割合（％）を含む】									
定期試験（60％）レポート課題（20％）受講態度（予習、復習を含む）（20％）による総合評価									

【テキスト及び参考書】 テキスト 「表現者を育てるための保育内容「音楽表現」―音遊びから音楽表現へ―」（教育情報出版） 「わくわく音遊びでかんたん発表会―手拍子ゲームから器楽合奏まで―」（鈴木出版） 「こどものうた200」「続こどものうた200」（チャイルド本社） 参考書 「幼稚園教育要領（文部科学省平成29年3月告示）」（フレーベル館） 「保育所保育指針（厚生労働省平成29年3月告示）」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省平成29年3月告示）」（フレーベル館）	
【学生へのメッセージ】 保育者を目指す皆さんは、子どもの前で様々な表現活動を示していく表現者です。自分が感じたことを素直に表現する力を付けていきましょう。まずは、保育者として表現することを楽しむことが大切です。そのために、日頃から身の回りの環境にある音や音楽などに関心を持ち、子どもと一緒に活動を楽しめる保育者を目指してください。授業形態は演習ですので、他の人と協力して取り組むことも学びとして捉えて授業に臨んでください。なお、単位取得をするうえで、1コマの授業につき90分程度の事前事後学習学修が必要です。	
【備 考】 特になし。	
【担当教員の連絡先等】 担当教員E-mail:ishii@tohaya.ac.jp	
学校専用E-mail:shin@tohaya.ac.jp	

授 業 科目名	音楽表現指導法	担 当 教員名	金子 珠世	単位数	1	授業 区分	演習	開講 時期	1 年 後期
【授業の到達目標及びテーマ】 (1) 幼稚園教育要領等における保育・幼児教育の基本、領域「表現」のねらい及び内容を理解している。 (2) 領域「表現」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付ける内容と指導上の留意点を理解している。 (3) 子どもの心身の発達及び活動を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 (4) 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定したり指導案を作成することができる。 (5) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。									
【授業の概要】 保育・幼児教育における音楽表現活動について、具体的な実践を通して知識・技能、表現力の習得を目指す。即興的な音楽表現活動では、身体の動きと言葉との関わりについて、絵本の擬音語・擬態語のイメージを身体の動きで表現する。五音音階を用いた音楽づくりでは、わらべうたや琉球音階等の日本民謡の音楽的特徴を学び、即興的な表現活動を体験する。さらに、保育におけるICT活用では、ICT機器の特徴を保育業務や保育内容にどのように取り入れるかについて、またWeb上で音楽づくりや動画教材の配信についてグループ演習を行う。これらの経験と子どもの発達に即した音楽遊びの演習、オペレッタの創作等をふまえて音楽遊びの指導案を作成を通して子どもの音楽表現活動、保育内容、保育環境に対する理解を深め、保育における評価方法について考察する。									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	オリエンテーション、身体表現 －イメージと身体との関わりを学ぶ。				【事前】 シラバスを読み授業の概要を理解する。				
第2回	身体表現（擬音語・擬態語） －絵本をもとに身体表現を創作する。				【事後】 即興演劇（インプロ）について調べる。				
第3回	音楽遊びの演習（1） －乳児，おおむね2歳児				【事前】 『もこもこもこ』の下読みをする。				
第4回	音楽遊びの演習（2） －1歳以上3歳未満児，3歳以上児				【事後】 擬音語・擬態語の音楽的要素を整理する。				
第5回	音楽遊びの演習（1） －乳児，おおむね2歳児				【事前】 乳児，2歳児の音楽的発達を確認する。				
第6回	音楽遊びの演習（2） －1歳以上3歳未満児，3歳以上児				【事後】 乳児，2歳児の音楽表現活動を考察する。				
第7回	保育指導案の作成（1） －要領等での保育内容「表現」を学ぶ。				【事前】 3歳以上児の音楽的発達を確認する。				
第8回	保育指導案の作成（2） －指導案の構成と留意点を理解する。				【事後】 3歳以上児の音楽表現活動を考察する。				
第9回	オペレッタ（1） －総合的な表現活動を実践的に学ぶ。				【事前】 要領，指針の領域「表現」の記述を読む。				
第10回	オペレッタ（2） －創作における協働について理解する。				【事後】 領域「表現」と他領域との関連を整理する。				
第11回	保育におけるICT活用 －保育におけるICT活用を討議する。				【事前】 該当する教科書を精読する。				
第12回	音楽遊びとICT活用（1） －音楽遊びの動画教材の内容を検討する。				【事後】 UDにもとづく音楽遊びの指導案を作成する。				
第13回	音楽遊びとICT活用（2） －動画教材の撮影，構成を話し合う。				【事前】 1年次の発表について振り返りを行う。				
第14回	即興表現活動（わらべうた創作） －民謡音階の音楽的特徴を学び創作する。				【事後】 各自の役割を把握して準備をする。				
第15回	即興的表現活動（沖縄民謡，リズム遊び） －ICTを活用した音楽づくりを行う。				【事前】 グループで情報を共有して練習を行う。				
第16回	模擬保育 －模擬保育とその後の振り返りを通して改善点を話し合う。				【事後】 作品および各自の役割について振り返える。				
第17回	授業のまとめ －講義演習を振り返り理解度を確認する。				【事前】 保育でのICT活用の事例を調べる。				
第18回					【事後】 ICT活用のメリット、デメリットを整理する。				
第19回					【事前】 動画投稿サイトでの音楽遊びを調べる。				
第20回					【事後】 グループでの担当について練習、準備する。				
第21回					【事前】 撮影の準備をグループで話し合う。				
第22回					【事後】 ICT活用での音，視覚教材，表現を考察する。				
第23回					【事前】 鍵盤ハーモニカの取扱いを調べる。				
第24回					【事後】 わらべ歌の創作課題を完成する。				
第25回					【事前】 CHROME MUSIC LABの使い方を調べる。				
第26回					【事後】 データ共有方法等ICT活用の効果をまとめる。				
第27回					【事前】 教材，指導方法等の準備を行う。				
第28回					【事後】 ディスカッションの内容から子どもの表現活動を指導・援助の方法を省察する。				
第29回					【事前】 授業の内容を各自まとめる。				
第30回					【事後】 授業の振り返りを行い自己課題を整理する。				

【学生に対する評価:各評価項目については評価割合（％）を含む】 定期試験（60％）レポート課題（20％）受講態度（予習、復習を含む）（20％）による総合評価
【テキスト及び参考書】 「表現者を育てるための保育内容「音楽表現」―音遊びから音楽表現へ―」（教育情報出版） 「わくわく音遊びでかんたん発表会―手拍子ゲームから器楽合奏まで―」（鈴木出版） 「こどものうた200」「続こどものうた200」（チャイルド本社） 参考書 「幼稚園教育要領（文部科学省平成29年3月告示）」（フレーベル館） 「保育所保育指針（厚生労働省平成29年3月告示）」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省平成29年3月告示）」（フレーベル館）
【学生へのメッセージ】 領域「表現」において保育者に求められるスキルとして、子どもの表出や表現に気付き共感する力があります。子どもの表現を支えるための歌や楽器の技術はもちろん必要ですが、授業を通して音楽の本質的な営みについて考える機会としてください。また、日頃から社会における保育の動向に問題意識をもち、授業内の活動にも生かしてください。なお、単位取得をするうえで、1コマの授業につき90分程度の事前事後学習学修が必要です。
【備 考】 特になし。
【担当教員の連絡先等】 学校専用E-mail:shin@tohaya.ac.jp

授 業 科目名	社会福祉	担 当 教員名	矢野 洋子	単位数	2	授業 区分	講義	開講 時期	1 年 前期
【授業の到達目標及びテーマ】									
①社会福祉の基本的な理念と実際について学ぶ。									
②社会福祉の各領域を実践的事例から学ぶ。									
③福祉文化の担い手としての専門性を追求する。									
【授業の概要】									
社会福祉は私たち一人ひとりの身近な問題であり、国民的課題である。少子高齢社会に突入した現在、専門職としての保育士は、大きく変化する社会のなかで、的確な情報を収集・提供し、多様なニーズに応えていかなければならない。そのため、授業では理念に裏付けされた実践的な側面に焦点をあてて社会福祉の基本についての理解を深める。									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第 1 回	オリエンテーション				【事前】	はじめにを読む			
					【事後】	「授業のポイント」記入、提出			
第 2 回	社会福祉の概念				【事前】	第1章を読む			
					【事後】	「授業のポイント」記入、提出			
第 3 回	社会福祉と現代社会				【事前】	第2章を読む			
					【事後】	「授業のポイント」記入、提出			
第 4 回	社会福祉の歴史①				【事前】	第3章1を読む			
					【事後】	「授業のポイント」記入、提出			
第 5 回	社会福祉の歴史②				【事前】	第3章2を読む			
					【事後】	「授業のポイント」記入、提出			
第 6 回	社会福祉の仕組み				【事前】	第4章を読む			
					【事後】	「授業のポイント」記入、提出			
第 7 回	社会福祉の機関と施設				【事前】	第6章を読む			
					【事後】	「授業のポイント」記入、提出			
第 8 回	社会保障				【事前】	第7章を読む			
					【事後】	「授業のポイント」記入、提出			
第 9 回	社会福祉の分野①児童（子ども）				【事前】	第8章を読む			
					【事後】	「授業のポイント」記入、提出			
第10回	社会福祉の分野②高齢者				【事前】	第10章を読む			
					【事後】	「授業のポイント」記入、提出			
第11回	社会福祉の分野③障害児・者				【事前】	第11章を読む			
					【事後】	「授業のポイント」記入、提出			
第12回	社会福祉の分野④地域				【事前】	第12章を読む			
					【事後】	「授業のポイント」記入、提出			
第13回	社会福祉の援助技術				【事前】	第14章を読む			
					【事後】	「授業のポイント」記入、提出			
第14回	社会福祉の担い手とボランティア				【事前】	第15章1・2を読む			
					【事後】	「授業のポイント」記入、提出			
第15回	まとめ				【事前】	第15章3を読む			
					【事後】	「授業のポイント」記入、提出			
【学生に対する評価】									
受講態度(5%)、レポート(15%)、定期試験（80%）等による総合評価									

【テキスト及び参考書】 「はじめて学ぶ社会福祉」 （建帛社） 「社会福祉小六法」 （ミネルヴァ書房）
【学生へのメッセージ】
【備 考】
【担当教員の連絡先等】 担当教員E-mail:yano@tohaya.ac.jp 学校専用E-mail:

授 業 科目名	子ども家庭福祉	担 当 教員名	矢野 洋子	単位数	2	授業 区分	講義	開講 時期	1 年 前期
【授業の到達目標及びテーマ】 ①現代社会における子ども家庭福祉の意義、歴史的変遷について理解する。 ②子どもの人権擁護について理解する。 ③子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 ④子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 ⑤子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。									
社会の変化は子ども、家族、地域のあり方に大きな影響を与え、子どもの健やかな育ちに対して支援を行うことが不可欠となっている。保育士は、さまざまな状況に置かれる子どもや家族を理解し、護り、必要な機関と連携しながら子どもの自立を支援する役割を持っている。子どもの権利を十分に認識し、基本となる制度に関する知識を学び、具体的な支援への考察を深めていきたい。									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第 1 回	オリエンテーション 子ども家庭福祉とは	【事前】 テキスト第1章1を読む 【事後】 「授業のポイント」記入、提出							
第 2 回	子どもと家庭を取り巻く現状	【事前】 テキスト第1章2を読む 【事後】 「授業のポイント」記入、提出							
第 3 回	子どもの権利について	【事前】 テキスト第1章3を読む 【事後】 「授業のポイント」記入、提出							
第 4 回	子どもの人権擁護の流れと課題	【事前】 テキスト第2章を読む 【事後】 「授業のポイント」記入、提出							
第 5 回	子ども家庭福祉の制度と法体系	【事前】 テキスト第3章を読む 【事後】 「授業のポイント」記入、提出							
第 6 回	子ども家庭福祉の実施体系	【事前】 テキスト第4章1、2を読む 【事後】 「授業のポイント」記入、提出							
第 7 回	子ども家庭福祉の専門職と児童福祉施設 中間まとめ	【事前】 テキスト第4章3、4を読む 【事後】 これまでの内容を見直しファイルを整える							
第 8 回	子どもの貧困、外国籍の子どもとその家庭への対応	【事前】 テキスト第 6 章 6、5を読む 【事後】 「授業のポイント」記入、提出							
第 9 回	多様な保育ニーズへの対応と保育サービス	【事前】 テキスト第5章3を読む 【事後】 「授業のポイント」記入、提出							
第 1 0 回	子ども虐待とDVとその防止	【事前】 テキスト第6章2を読む 【事後】 「授業のポイント」記入、提出							
第 1 1 回	母子保健と子どもの健全育成	【事前】 テキスト第5章2を読む 【事後】 「授業のポイント」記入、提出							
第 1 2 回	障がいのある子どものへの対応	【事前】 テキスト第6章4を読む 【事後】 「授業のポイント」記入、提出							
第 1 3 回	少子化と地域の子育て支援サービス	【事前】 テキスト第5章1、第6章1を読む 【事後】 「授業のポイント」記入、提出							
第 1 4 回	地域における連携・協働とネットワーク	【事前】 テキスト第7章を読む 【事後】 「授業のポイント」記入、提出							
第 1 5 回	まとめ	【事前】 授業プリントを整理する 【事後】 授業の内容を振り返りまとめる							
【学生に対する評価】 受講態度（10％）、提出物（10％）、定期試験（80％）等による総合評価									

【テキスト及び参考書】 「はじめて学ぶ子どもの福祉」（建帛社） 「社会福祉小六法」（ミネルヴァ書房）	
【学生へのメッセージ】 子どもに関わる専門職として、基本となる「子どもの権利」の理念をしっかり学び、身につけられるようにしていき「社会福祉」と連動させて、自分の身近な問題として感じながら、授業に取り組んでください。	
【備 考】	
【担当教員の連絡先等】 担当教員E-mail: yano@tohaya.ac.jp	
学校専用E-mail:	

授 業 科目名	保育原理	担 当 教員名	河合 倫子	単位数	2	授業 区分	講義	開講 時期	1 年 前期
【授業の到達目標及びテーマ】 「保育原理」という授業科目は、乳幼児期の人間形成を社会的・組織的・計画的に行う場としての保育所と幼稚園を主な対象とし、それぞれの目的と保育の目標、保育の基本、保育の内容・計画・方法等について、法令と制度に基づき原理的かつ体系的に理解することをねらいとするものです。 保育者（保育士や幼稚園教諭）には上記の専門的知識・理解が必要不可欠ですが、保育所や幼稚園での保育という仕事は一人で行うものではなく、上司や先輩・同僚、そして保護者との連携・協力なしに行うことはできません。したがって、受講生の到達目標は、上記の専門的知識・理解を「覚える」だけでなく、それを保護者等にも分かりやすく「説明できる」ことです。									
【授業の概要】 この授業は、保育所と幼稚園の特徴、それぞれの目的、目標、保育の基本、保育内容の考え方と組み立て方、保育の計画と方法の原則、それぞれの社会的役割などについて専門的な知識・理解を修得することに主眼を置き、以下のように概説していきます。									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第 1 回	オリエンテーション（授業内容と計画、教科書の使い方、諸注意、試験方法と評価基準等）	【事前】 シラバスに目を通し、授業に持参すること							
		【事後】 シラバスの該当箇所の確認と復習							
第 2 回	保育の意義と基本的性格(養護と教育)	【事前】 教科書の指定箇所の予習							
		【事後】 教科書の指定箇所、ノートの整理・復習							
第 3 回	保育の環境（人的環境としての保育者）	【事前】 教科書の指定箇所の予習							
		【事後】 教科書の指定箇所、ノートの整理・復習							
第 4 回	幼稚園と保育所（学校と児童福祉施設）	【事前】 配布プリント、教科書の指定箇所の予習							
		【事後】 配布プリント、教科書の指定箇所の復習、ノートの整理							
第 5 回	幼稚園の目的と教育目標	【事前】 配布プリント、教科書の指定箇所の予習							
		【事後】 配布プリント、教科書の指定箇所の復習、ノートの整理							
第 6 回	幼稚園教育の基本と指導の原則	【事前】 配布プリント、教科書の指定箇所の予習							
		【事後】 配布プリント、教科書の指定箇所の復習、ノートの整理							
第 7 回	保育所の目的と保育目標	【事前】 配布プリント、教科書の指定箇所の予習							
		【事後】 配布プリント、教科書の指定箇所の復習、ノートの整理							
第 8 回	保育所保育の基本と指導の原則	【事前】 配布プリント、教科書の指定箇所の予習							
		【事後】 配布プリント、教科書の指定箇所の復習、ノートの整理							
第 9 回	幼稚園・保育所における子育て支援	【事前】 配布プリント、教科書の指定箇所の予習							
		【事後】 配布プリント、教科書の指定箇所の復習、ノートの整理							
第10回	認定こども園と家庭的保育事業	【事前】 配布プリント、教科書の指定箇所の予習							
		【事後】 配布プリント、教科書の指定箇所の復習、ノートの整理							
第11回	保育内容の分類と編成（ねらいと内容）	【事前】 配布プリント、教科書の指定箇所の予習							
		【事後】 配布プリント、教科書の指定箇所の復習、ノートの整理							
第12回	保育内容の分類と編成(領域)	【事前】 配布プリント、教科書の指定箇所の予習							
		【事後】 配布プリント、教科書の指定箇所の復習、ノートの整理							
第13回	教育・保育課程と指導計画	【事前】 配布プリント、教科書の指定箇所の予習							
		【事後】 配布プリント、教科書の指定箇所の復習、ノートの整理							
第14回	保育形態と保育方法	【事前】 配布プリント、教科書の指定箇所の予習							
		【事後】 配布プリント、教科書の指定箇所の復習、ノートの整理							
第15回	保育の現状と課題	【事前】 配布プリント、教科書の指定箇所の予習							
		【事後】 配布プリント、教科書、ノートによる授業全体の復習							
【学生に対する評価】 受講態度・授業への取り組み(20%)、定期試験(80%)を総合して学習到達度を評価します。 なお、保育者には保護者等に対する適切な説明能力、日本語表現能力が必要不可欠なので、定期試験は論述式の筆記問題を中心に出題します。									

【テキスト】

「コンパス 保育原理－未来を生きる子どもの保育－」 田中敏明 編著（建帛社）

「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示 文部科学省）（フレーベル館）

「保育所保育指針」（平成29年3月告示 厚生労働省）（フレーベル館）

「[幼保連携型認定こども園 教育・保育要領]」（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）（フレーベル館）

【参考書】

授業の中で適宜紹介します。

【学生へのメッセージ】

授業中は単に板書を書き写すだけではなく、積極的にノートやメモをたくさんとって下さい。

必要に応じて書き込み式のプリントを配布しますが、上記のテキストとノートは毎回持参して下さい。

授業中に質問や疑問があれば遠慮なく挙手して下さい。また、毎回の授業は必ず復習をして下さい。

保育所や幼稚園が求めている人材は、子ども好きで元気で明るいというだけではありません。それに加えて、上司や同僚、そして保護者と適切な人間関係が結べるかどうかが重視されています。そのため、実習では積極的な姿勢や態度はもちろん、礼儀作法や言葉遣いが重視され、採用試験では作文、面接、集団討論が重視されています。

この授業では、実習や採用試験のそのような実例をできるだけ多く紹介していく予定です。

【備考】

特になし

【担当教員の連絡先等】

学校専用E-mail : shin@tohaya.ac.jp

授 業 科目名	社会的養護Ⅰ	担 当 教員名	爪 田 瑠 璃	単位数	2	授業 区分	講義	開講 時期	1 年 後期
【授業の到達目標及びテーマ】									
① 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。 ② 子ども権利擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 ③ 社会的養護の制度や実施体系などについて理解する。 ④ 社会的養護の対象や形態、関係する専門職などについて理解する。 ⑤ 社会的養護の現況と課題について理解する。 ⑥ 施設見学などを通して社会的養護の実態を理解する。									
【授業の概要】									
児童福祉施設では命を預かっている、そしてその命は「日本の未来」です。私たちは子ども最善の利益と最大の発達を守り育ていくことが使命です。そのためにはすべての子どもが、生涯にわたる人格形成の基礎を築き、自律し、自立した個人として楽しみながら健やかに成長することができること、それがどのような環境におかれている子どもにも等しく保障されることが活動に反映されなければなりません。 本授業では保育士養成課程の教科目の教授内容に準拠し、保育に必要な基礎知識の習得を基本に、学生の皆さんが理解しやすく、自ら考えることを重視した視点で進めていきます。(新・基本保育シリーズ第2版刊行にあたってより参考)									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	オリエンテーションー社会的養護とは	【事前】 テキスト「はじめに」を読む 【事後】 「授業で学んだこと」記入、提出							
第2回	社会的養護の理念と概念	【事前】 テキスト第1章を読む 【事後】 「授業で学んだこと」記入、提出							
第3回	社会的養護の歴史的変遷	【事前】 テキスト第2章を読む 【事後】 「授業で学んだこと」記入、提出							
第4回	子どもの人権擁護と社会的養護	【事前】 テキスト第3章を読む 【事後】 「授業で学んだこと」記入、提出							
第5回	社会的養護の基本原則	【事前】 テキスト第4章を読む 【事後】 「授業で学んだこと」記入、提出							
第6回	社会的養護における保育士等の倫理と責務	【事前】 テキスト第5章を読む 【事後】 「授業で学んだこと」記入、提出							
第7回	社会的養護の制度と法体系	【事前】 テキスト第6章を読む 【事後】 「授業で学んだこと」記入、提出							
第8回	社会的養護のしくみと実施体系	【事前】 テキスト第7章を読む 【事後】 「授業で学んだこと」記入、提出							
第9回	社会的養護とファミリーソーシャルワーク	【事前】 テキスト第8章を読む 【事後】 「授業で学んだこと」記入、提出							
第10回	社会的養護の対象と支援のあり方	【事前】 テキスト第9章を読む 【事後】 「授業で学んだこと」記入、提出							
第11回	家庭養護と施設養護	【事前】 テキスト第10章を読む 【事後】 「授業で学んだこと」記入、提出							
第12回	社会的養護にかかわる専門職	【事前】 テキスト第11章を読む 【事後】 「授業で学んだこと」記入、提出							
第13回	社会的養護に関する社会的状況	【事前】 テキスト第12章を読む 【事後】 「授業で学んだこと」記入、提出							
第14回	施設等運営管理の現状と課題	【事前】 テキスト第13章を読む 【事後】 「授業で学んだこと」記入、提出							
第15回	被措置児童等の虐待防止の現状と課題	【事前】 テキスト第14章を読む 【事後】 「授業で学んだこと」記入、提出							
【学生に対する評価】									
授業への貢献度(5%)や参加意欲(15%)、レポート・提出物(80%)等による総合的評価									

【テキスト及び参考書】 『新基本保育シリーズ6 社会的養護Ⅰ』（中央法規） 『幼稚園教育要領』（文部科学省）（フレーベル館） 『保育所保育指針』（厚生労働省）（フレーベル館） 適宜プリント・資料類配布
【学生へのメッセージ】 社会的養護とはなにか、基本的な部分を学んでいきます。 座学中心ですが、アクティブラーニングを意識し、映像を用いた授業も実施予定です。 2年生の保育実習Ⅰ・Ⅲ（施設）を視野に入れた授業展開をします。
【備 考】
【担当教員の連絡先等】

授 業 科目名	保育実習Ⅰ（保育所）	担 当 教員名	榎本 郁美	単位数	2	授業 区分	実習	開講 時期	1 年 後期
【授業の到達目標及びテーマ】									
1. 保育所の役割や機能を具体的に理解する。									
2. 観察や子どものかかわりを通して子どもへの理解を深める。									
3. 保育現場において、既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者の支援について総合的に学ぶ。									
4. 保育の計画、観察、記録および自己評価等について具体的に理解する。									
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。									
【授業の概要】									
・実習は、保育実習での意義や目的を理解するとともに、「コミュニケーション能力の育成」「他者への思いやり」「観察力の育成」を目指して行う。併せて、子どもの最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解する。									
・この実習を通して学んだ課題を明確化し、次回の実習へ前向きに取り組めるようにする。									
【授業計画】									
第 1 週	①保育所の役割と機能 （1）保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり実習施設について理解する。								
	②保育所保育指針に基づく保育の展開 保育所の一日の流れを理解し、参加する。								
	③子ども理解 子どもの観察とその記録による理解（観察の視点を学び、観察やかかわりを通して乳幼児の発達を理解する。）								
	④子どもの理解 子どもの発達過程の理解 子どもの援助や関わり								
	⑤保育の計画に基づく保育内容 生活や遊びの一部分を担当し、保育技術を習得する。								
	⑥子どもの発達過程に応じた保育内容 子どもの生活や遊びと保育環境								
	⑦記録や保護者とのコミュニケーションを通して、保護者支援や家庭地域社会を理解する。								
	⑧子どもの健康と安全について理解する。 子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。								
第 2 週	⑨専門職としての保育士の役割と職業倫理・保育士の業務内容を具体的に学ぶ。職員間の役割分担や連携・協働								
	⑩保育の計画・観察・記録（1）全体的な計画と指導計画及び評価の理解 （2）記録に基づく省察・自己評価								
	⑪他者評価と自己課題 自己との向き合い方（次の実習に向かうための）								
（ 実習期間 ） （ 実習園 ） 別途記載する。									
【学生に対する評価】									
実習園の評価をもとに事前指導・事後指導の取り組み状況などの総合評価									
【テキスト及び参考書】									
「保育所保育指針」（平成29年3月告示 厚生労働省）（フレーベル館）									
「保育所保育指針解説書」（平成30年3月告示 厚生労働省）（フレーベル館）									
「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示 文部科学省）（フレーベル館）									
「幼稚園教育要領解説書」（平成30年3月告示 文部科学省）（フレーベル館）									
「保育実習（保育所）の手引き」（北九州保育福祉専門学校編）									
「保育方法・指導法」（ミネルヴァ書房）									
【学生へのメッセージ】									
・保育実習期間中の、質問や疑問、様々な不安などは、一人で抱え込むことのないよう担当に相談してください。実習園においても、学校においても、「報告、連絡、相談」を常に心がけましょう。（担当者への連絡や着信への応答はメールで済ませない。）									
・保育実習という大切な機会を活かし、多くの子どもと関心をもって、接するように心がけましょう。									
・実習では、子どもの興味や関心、発達の状態を知り、子どもへの理解を深めましょう。									
・保育士という専門職の理解や保護者支援について学ぶことが出来るよう意欲的に実習に臨みましょう。									
【備 考】									
※戸惑いや緊張感を少しでも緩和するべく、事前に乳幼児の発達に対する学習は必要です。また、皆の前で、自分の考えていることや思いが伝わるように発言する事も大事です。声の大きさの調整に気を配りましょう。									
【担当教員の連絡先等】									
担当教員E-mail：enomoto@tohaya.ac.jp					学校専用E-mail：				

授 業 科目名	保育実習指導Ⅰ (保育所)	担 当 教員名	榎本 郁美	単位数	1	授業 区分	演習	開講 時期	1 年 後期
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 保育の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益を考えプライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。									
【授業の概要】 ・ 保育所での保育実習の意義や目的を理解すると共に、保育所における子どもの人権や、最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解できるようにする。 ・ 実習の計画、実践、観察、記録、自己評価の方法や内容について、観察眼を育成しながら具体的に理解できるようにする。また、子どもの主体性や心の動きを捉えられる感性の大切さに気づかせていく。 ・ 保育参加・補助の方法・子ども理解の方法等DVD等も活用しながら理解できるようにする。 ・ 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い自己課題を明確化し、次の実習に繋がられるようにする。									
【授業計画】					【事前・事後学習（学習課題等の具体的な内容）】				
第1回	オリエンテーション 保育実習の意義 プライバシーの保護と守秘義務				【事前】 手引きに目を通す。				
					【事後】 授業の振り返りと全国保育士会倫理綱領の確認。				
第2回	(1) 実習の目的 DVD視聴 (2) 実習の概要 保育所の生活とあそび				【事前】 手引きを通し、実習の目的・施設の概要を読んでおく。				
					【事後】 DVD視聴振り返り 保育所の生活等の学びを整理する。				
第3回	観察実習事前指導 観察の視点・子どもの人権と最善の利益の考慮				【事前】 手引きの保育所観察実習についてを読んでおく。				
					【事後】 授業の振り返り。観察について「実習日誌の書き方」を読む。				
第4回	観察実習事後指導 実習における観察、記録及び評価				【事前】 日誌、自己評価、アンケート等書いておく。				
					【事後】 授業内容の整理・復習・今後の手順を押えておく。				
第5回	保育実習Ⅰ（保育所）の課題・実習日誌記入の仕方 （2歳児演習）				【事前】 観察実習を踏まえ、手引きの保育実習Ⅰを読んでおく。				
					【事後】 授業の振り返りと2歳児の日誌を書く。				
第6回	手遊び、読み聞かせ演習				【事前】 お気に入り絵本（未満児向け）を読み込んでくる。				
					【事後】 手遊び3つを覚える。（観察実習）授業内容を整理する。				
第7回	実習日誌の書き方（5歳児演習）				【事前】 5歳児の日誌の環境整備と援助・配慮を整理し、記入し直す。				
					【事後】 授業内容（保育者○・実習生●分けて書くことに慣れる）				
第8回	教材作り（パネルシアター）				【事前】 パネルシアター色塗り、切り離しを終えておく。				
					【事後】 グループで演習をする。				
第9回	グループワーク（パネルシアター演習）				【事前】 効果的な発表の仕方を研究する。				
					【事後】 振り返り。				
第10回	保育実習（保育所）の課題・指導案の作成 実習における計画と実践				【事前】 保育実習Ⅰに向けての自己課題を明確にする。				
					【事後】 指導案の仕上げをする。				
第11回	グループワーク（素話発表）				【事前】 冬休み期間中に素話（昔話）を覚える。				
					【事後】 振り返り。素話を3つ選び、覚える。				
第12回	グループワーク（模擬保育）				【事前】 指導最案を見ることがなく行えるようにシミュレーションの練習。				
					【事後】 評価と振り返り。				
第13回	保育実習Ⅰ（保育所）事前指導 （外部講師による実習直前授業）				【事前】 振り返りを基に再度教材研究をする。				
					【事後】 特別授業の振り返り。				
第14回	保育実習Ⅰ（保育所）事後指導 実習の総括と自己評価 課題の明確化				【事前】 日誌の仕上げ、自己評価、アンケート等を書いてくる。				
					【事後】 今後の流れを押え、お礼状の清書をしておく。				
第15回	実習報告会				【事前】 各園の特色を整理しておく。				
					【事後】 次の実習に向け、自己課題を明確にする。				

【学生に対する評価】 受講態度、教材用作品（パネルシアター）演習、実習に対する取り組みや意欲・日誌・指導案・提出物これらによる総合評価 ※ 手遊び、あそび歌、わらべ歌、素話等学生の前で発表する機会を多く取り入れ、評価する。
【テキスト及び参考書】 「保育所保育指針」（平成29年3月告示 厚生労働省）（フレーベル館） 「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示 文部科学省）（フレーベル館） 「実習日誌の書き方」「保育指導案大百科事典」（一藝社） 「新聞紙で遊ぼう」（かもがわ出版） 「保育方法・指導法」（ミネルヴァ書房）
【学生へのメッセージ】 目の前の課題に真摯に取り組むことで、振り返ると必ず、自信につながっていきます。一つ一つ小さな積み重ねが、あなたの未来を拓いてくれます。 保育者としてのスキルを一つ一つ身に付け積み重ねていくことで、自信に繋がり、モチベーションも上がります。 後ろ向きでなく、やるべきものとの自覚で目の前の一つひとつ丁寧にやり遂げてください。結果は、後からついてきます。
【備 考】 ※乳幼児の発達理解の重要性が分かり、学び取る努力をすること。内容総論の授業内容や子どもの発達を常に意識すること。各授業内で学んだうた遊びやわらべ歌、作成した折り紙や、ウレタン人形など活用する努力を惜しまない。事前準備、事前学習、授業振り返り、グループワークは、毎回行うので、プリント類のファイルの仕方を工夫すること。
【担当教員の連絡先等】 担当教員E-mail:enomoto@tohaya.ac.jp 学校専用E-mail:

授 業 科目名	子どもの保健	担 当 教員名	榎本 郁美	単位数	2	授業 区分	講義	開講 時期	1 年 前期
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する 2. 子どもの発育・発達を理解し、適切な保健活動ができる 3. 子どもの心身の健康状態とその把握方法を理解する 4. 子どもの病気や事故の予防法を理解し、適切に対処できる 5. 他職種や地域との連携の意義を理解する									
【授業の概要】 ・子どもが病気にならないように保健衛生を整え、看護する医療的なことだけでなく、多様な子どもたちをより健康的に豊かに育てることを目指す。 ・さらには近年の社会情勢を踏まえ虐待や地域との連携など幅広い見地を養い、あらゆる場面で適切に対応できるための資質の向上を図る。									
【授業計画】					【事前・事後学習（学習課題等の具体的な内容）】				
第 1 回	子どもの保健オリエンテーション				【事前】				
	第1章 子どもの健康と保健				【事後】 講義内容を復習して、学習の整理をする。				
	保健活動の意義と母子家庭の現状								
第 2 回	第2章 子どもの発育・発達と保健				【事前】 テキストの該当ページを読む。				
	子どもの身体発育と運動機能の発達				【事後】 講義内容を復習して、学習の整理をする。				
第 3 回	第2章 子どもの発育・発達と保健				【事前】 テキストの該当ページを読む。				
	生理機能の発達と生活習慣				【事後】 講義内容を復習して、学習の整理をする。				
第 4 回	第2章 まとめ				【事前】 テキストの該当ページを読む。				
	第3章 地域における保健活動と子どもの虐待防止				【事後】 講義内容を復習して、学習の整理をする。				
第 5 回	第4章 子どもの健康状態の観察と体調不良時の把握				【事前】 テキストの該当ページを読む。				
	第5章 子どもの病気				【事後】 講義内容を復習して、学習の整理をする。				
	子どもの免疫の発達と感染症の特徴								
第 6 回	第5章 子どもの病気				【事前】 テキストの該当ページを読む。				
	主なウイルス感染症				【事後】 講義内容を復習して、学習の整理をする。				
第 7 回	第5章 子どもの病気				【事前】 テキストの該当ページを読む。				
	感染症の予防および適切な対応				【事後】 講義内容を復習して、学習の整理をする。				
第 8 回	第5章 子どもの病気				【事前】 テキストの該当ページを読む。				
	救急疾患の特徴と適切な対応				【事後】 講義内容を復習して、学習の整理をする。				
第 9 回	第5章 子どもの病気				【事前】 テキストの該当ページを読む。				
	急性疾患による救急対応				【事後】 講義内容を復習して、学習の整理をする。				
第10回	第5章 子どもの病気				【事前】 テキストの該当ページを読む。				
	新生児の病気、先天性の病気の特徴と対応				【事後】 講義内容を復習して、学習の整理をする。				
第11回	第5章 子どもの病気				【事前】 テキストの該当ページを読む。				
	アレルギー疾患の特徴と適切な対応				【事後】 講義内容を復習して、学習の整理をする。				
第12回	第5章 子どもの病気				【事前】 テキストの該当ページを読む。				
	集団生活におけるアレルギー児への対応				【事後】 講義内容を復習して、学習の整理をする。				
第13回	第5章 子どもの病気				【事前】 テキストの該当ページを読む。				
	慢性疾患の特徴と適切な対応				【事後】 講義内容を復習して、学習の整理をする。				
第14回	第5章 子どもの病気				【事前】 テキストの該当ページを読む。				
	子どもの慢性疾患の種類と特徴				【事後】 講義内容を復習して、学習の整理をする。				
	第5章 まとめ								
第15回	第6章 保護者との情報共有と家族の支援				【事前】 テキストの該当ページを読む。				
	第7章 子どもの健康診断と関係機関との連携				【事後】 講義内容を復習して、学習の整理をする。				
	まとめ								

【学生に対する評価】 定期試験（８０％） 受講態度及び提出物（２０％）による総合評価
【テキスト及び参考書】 「子どもの保健テキスト」（診断と治療社） 「母子健康手帳」（東京法規） 「演習 子どもの保健Ⅱ」（みらい） プリント（資料）配布 「はじめて ママ＆パパの0～6才病気とホームケア」（主婦の友社）
【学生へのメッセージ】 授業中の態度や、ディスカッション、質問に対する回答などの対応は評価に反映します。 授業で配布したプリントは確実にファイリングしてください。
【備考】
【担当教員の連絡先】 学校専用E-mail: shin@tohaya.ac.jp

授 業 科目名	子どもの食と栄養	担 当 教員名	爪田 寿子	単位数	2	授業 区分	演習	開講 時期	1 年 後期
【授業の到達目標及びテーマ】									
①健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。									
②子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。									
③養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的な考え方、その内容等について理解する。									
④家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。									
⑤関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。									
【授業の概要】									
小児期における心身の発達や発達課題に気づき、保育者として適切な食事支援ができるよう小児栄養の基礎的知識を具体的に身に付けるようとする。									
食生活の具体的な場面を想定し、食事のバランスについて考え、正しい食生活の基礎作りの習得を目指す。									
特別な配慮を要する個々の子ども等に応じた食の在り方について、家庭や地域・関係機関と連携した対応の仕方を考えることができる。									
調理実習や食育教材作り等の演習を通して、食育に主体的に取り組むようにする。									
食に関する関連法規やガイドラインを近年のデータ等を用いて理解する。									
授業については、パソコンを使った調べ学習や班学習など多様な方法を取り入れ個の食への興味関心を広げたい。									
【授業計画】				【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】					
第 1 回	子どもの健康と食生活の意義	ガイダンス	【事前】 食物に関する自己紹介を考えてくる。						
			【事後】 子どもの食と栄養を学ぶ意義を書く。						
第 2 回	栄養に関する基本的知識	日本人の食事摂取基準 (ネット検索)	【事前】 自分の体型と食事と運動の傾向を記録する。						
			【事後】 自分の推定エネルギー必要量が言える。						
第 3 回	栄養に関する基本的知識	各栄養素と摂り方	【事前】 中高で学習した栄養を思い出す。						
			【事後】 各栄養素の働きをまとめる。						
第 4 回	献立作成と調理の基本		【事前】 食品表示について調べてくる。						
			【事後】 自分ができる食中毒の予防についてまとめる。						
第 5 回	子どもの発育・発達と食生活	胎児期(妊娠期)	【事前】 自分の出生時の体重、身長を調べてくる、						
			【事後】 保育者として妊婦の母への声掛けを考える。						
第 6 回	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活		【事前】 離乳食について調べてくる。						
			【事後】 乳幼児期の発育発達についてまとめる。						
第 7 回	幼児期の心身の発達と食生活		【事前】 幼児の心身の発達の特徴を考える。						
			【事後】 幼児の食行動の特徴をまとめる。						
第 8 回	学童期の心身の発達と食生活		【事前】 小学校の給食を思い出す。						
			【事後】 多様な児童の対応について考える。						
第 9 回	乳児期または幼児期の調理計画 (班活動)		【事前】 乳幼児食についてイメージを広げておく。						
			【事後】 班の献立の調理手順の確認をする。						
第10回	乳幼児期の調理実習と栄養アセスメント (班活動)		【事前】 計画表、身だしなみ、エプロン等の確認をする。						
			【事後】 子どもにふさわしい調理ができたか評価表をまとめる。感想を書く。						
第11回	食育の基本と内容		【事前】 食育基本法を読んでくる。						
			【事後】 食育カルタを1枚作ってくる。						
第12回	家庭や児童福祉施設における食事と栄養		【事前】 児童福祉施設を調べてくる。						
			【事後】 保育園での食事の与え方について考える。						
第13回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 (疾病及び体調不良)		【事前】 子どもの体調不良の症状を考えてくる。						
			【事後】 保育者としての対応をまとめる。						
第14回	食物アレルギーや障害のある子どもへの対応		【事前】 アナフィラキシーショックについて調べてくる。						
			【事後】 食に関する問題行動のある子どもへの対応について考える。						
第15回	まとめと今後の課題		【事前】 食育だより（給食だより）の記事を考える。						
			【事後】 食育通信を完成させて配布する。						

【学生に対する評価】 発表等受講態度(20%)、ノート・レポート等提出物(20%)、定期試験(60%)等の総合評価毎時間の提出物も評価します。
【テキスト及び参考書】 テキスト：「最新 子どもの食と栄養 食生活の基礎を築くために」（学建書院） ；「平成29年告示 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本）」チャイルド本社 2019 参考図書：「子どもの食と栄養」（光生館） ：配布プリント（資料）
【学生へのメッセージ】 ・ 毎回授業に関連するプリント（資料）を配布する。気づいたことを各自でまとめ毎回提出する。返却されたプリントはA4ノートに添付する。試験後提出あり。 ・ 自分の食生活に関心をもつこと。
【備 考】
【担当教員の連絡先等】 学校専用E－m a i l：shin@tohaya.ac.jp

授 業 科目名	保育内容総論	担 当 教員名	後藤 伸子	単位数	1	授業 区分	演習	開講 時期	1 年 前期
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」「保育内容」の関連を理解する。 2. 保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 3. 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史的変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）につなげて理解する。 4. 保育の多様な展開について具体的に理解する。									
【授業の概要】 ・動画の視聴や事例の検討を通して、保育現場の生活や遊びの中で、子どもがどのような経験をしているか、それが5領域のねらい・内容とどのようにつながっているかについて学ぶことができるようにする。また、保育者としてどのように子どもの発達を捉え、保育内容、保育環境の構成、援助の在り方等を実践していくかについて理解できるように授業を展開する。									
【授業計画】					【事前・事後学習（学習課題等の具体的な内容）】				
第1回	オリエンテーション 保育内容総論の理解のために				【事前】 シラバス・教科書の序章を読んでおく。				
					【事後】 授業を振り返り理解を深める。（ノート等の整理）				
第2回	なぜ保育内容総論を学ぶのか 「総論」であることの意味・保育の場が目指すこと・保育内容を総合的に捉える				【事前】 授業内容について教科書を熟読する。				
					【事後】 授業を振り返り理解を深める。（ノート等の整理）				
第3回	保育内容の歴史的変遷とその社会背景				【事前】 授業内容について教科書を熟読する。				
					【事後】 授業を振り返り理解を深める。（ノート等の整理）				
第4回	子どもの発達や生活に即した保育内容				【事前】 授業内容について教科書を熟読する。				
					【事後】 授業を振り返り理解を深める。（ノート等の整理）				
第5回	養護と教育の一体性とは				【事前】 授業内容について教科書を熟読する。				
					【事後】 授業を振り返り理解を深める。（ノート等の整理）				
第6回	子どもの生活と保育内容				【事前】 授業内容について教科書を熟読する。				
					【事後】 授業を振り返り理解を深める。（ノート等の整理）				
第7回	子どもの遊びと保育内容				【事前】 授業内容について教科書を熟読する。				
					【事後】 授業を振り返り理解を深める。（ノート等の整理）				
第8回	環境を通して行う保育 DVD視聴				【事前】 授業内容について教科書を熟読する。				
					【事後】 授業を振り返り理解を深める。（ノート等の整理）				
第9回	保育における「領域」①				【事前】 授業内容について教科書を熟読する。				
					【事後】 授業を振り返り理解を深める。（ノート等の整理）				
第10回	保育における「領域」②				【事前】 授業内容について教科書を熟読する。				
					【事後】 授業を振り返り理解を深める。（ノート等の整理）				
第11回	多様な保育の場における保育内容①				【事前】 授業内容について教科書を熟読する。				
					【事後】 授業を振り返り理解を深める。（ノート等の整理）				
第12回	多様な保育の場における保育内容②				【事前】 授業内容について教科書を熟読する。				
					【事後】 授業を振り返り理解を深める。（ノート等の整理）				
第13回	様々な配慮を要する子どもの保育				【事前】 授業内容について教科書を熟読する。				
					【事後】 授業を振り返り理解を深める。（ノート等の整理）				
第14回	小学校との接続				【事前】 授業内容について教科書を熟読する。				
					【事後】 授業を振り返り理解を深める。（ノート等の整理）				
第15回	現代社会の特質と保育内容				【事前】 授業内容について教科書を熟読する。				
					【事後】 授業を振り返り理解を深める。（ノート等の整理）				

【学生に対する評価】 定期試験(60%)、小テスト(20%)、発表など受講態度(10%)、提出物(10%)による総合評価	
【テキスト及び参考書】 「演習 保育内容総論」(萌文書林) 「幼児理解に基づいた評価(平成31年3月 文部科学省)」(チャイルド社) 「幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開」(令和3年2月) 「保育所保育指針」(平成29年3月告示 厚生労働省)(フレーベル館) 「幼稚園教育要領」(平成29年3月告示 文部科学省)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)(フレーベル館)	
【学生へのメッセージ】 学生の皆さんの主体的な学びの交流が生まれるようグループワーク等の機会を多く取り入れていきます。保育内容を総論として捉えることの意味を理解し、「目指す保育者像」・「求められる保育者」を共に考えていきましょう。なお、単位取得をするうえで1コマの授業につき90分程度の事前事後学習が必要です。事前学習として教科書に目を通して授業に臨むこと、事後学習として授業で配布した資料等をもとに復習することを習慣としていきましょう。教員と学生、学生同士の対話を通して、学び合える授業にしていきたいと考えています。	
【備考】 授業プリントは、丁寧にファイリングしましょう。提出していただき評価いたします。	
【担当教員の連絡先等】 担当教員E-mail:gotou@tohaya.ac.jp	学校専用E-mail:

授 業 科目名	乳児保育Ⅰ	担 当 教員名	榎本 郁美	単位数	2	授業 区分	講義	開講 時期	1 年 前期
【授業の到達目標及びテーマ】									
①乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割などについて理解する。									
②乳児の成長発達に即した保育の基本を理解する。									
③健やかな成長を支える 3 歳未満児の生活と遊びについて理解する。									
④乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。									
※「乳児保育」とは、3 歳未満児を念頭に置いた保育を示す。									
【授業の概要】									
人の一生は、乳幼児期にどんな大人と関わったかで大きく左右されるといわれる。									
保育所は一日の大半を過ごす大切な場所であり、保育者に関わる時間は長くその役割は重要なものである。									
責任の重さも計り知れないものがある。そのことを深く認識するために保育所保育指針に学びながら、発達の主な特徴を知り乳児の生活を理解した上で、保育者の適切な援助を学習する。子どもの生命の尊さ、命を育むことの意義を学び、温かな人間性と諸科学の理論に裏付けられた保育実践を身に付ける。									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第 1 回	オリエンテーション 乳児保育とは 保育ニーズと乳児保育の必要性				【事前】 「保育者になる」ことを再考する				
					【事後】 仲間の思いを知る				
第 2 回	乳児保育の歴史と現状				【事前】 教科書を通読し考えをまとめる				
					【事後】 受講して考えは変わったか				
第 3 回	3 歳未満児の発達と保育 発達の特性				【事前】 教科書を通読				
					【事後】 講義の復習				
第 4 回	年月齢別発達と保育				【事前】 教科書を通読				
					【事後】 発達表に記録				
第 5 回	手作り玩具作成 牛乳パックでアンパンマンを作る				【事前】 材料を収集				
					【事後】 玩具を使って実践				
第 6 回	3歳未満児の発達と特徴 出生から1歳未満				【事前】 質問ができるように資料に目を通しておく				
					【事後】 復習をする				
第 7 回	子どもの成長DVD視聴				【事前】 イメージしておく				
					【事後】 視聴後、感想文提出				
第 8 回	3歳未満児の発達と特徴 1歳から2歳未満				【事前】 教科書を通読				
					【事後】 復習する				
第 9 回	3歳未満児の発達と特徴 2歳から3歳未満				【事前】 教科書を通読				
					【事後】 小テスト				
第10回	3歳未満児の発育・ 発達を踏まえた保育士等による援助や関わり				【事前】 保育士の仕事内容や専門性を考える				
					【事後】 乳児保育者に望まれることとは				
第11回	3歳未満児の生活と環境				【事前】 教科書を通読				
					【事後】 グループワーク				
第12回	3歳未満児の遊びと環境				【事前】 教科書を通読				
					【事後】 グループワーク				
第13回	乳児保育における職員間の連携・協働				【事前】 イメージ化しておく				
					【事後】 復習をする				
第14回	乳児保育における保護者や 地域の関係機関との連携				【事前】 グループワーク				
					【事後】 レポートにまとめる				
第15回	まとめ				【事前】 質問事項				
					【事後】 振り返りを行う				
【学生に対する評価】									
定期試験(60%)、提出物(20%)、受講態度 (20%) これらの総合評価									

【テキスト及び参考書】

「新保育ライブラリー 乳児保育（新版）保育の内容・方法を知る」（北大路書房）

「離乳食マニュアル」（北九州市福祉事業団）

「保育所保育指針」（平成29年3月告示 厚生労働省）（フレーベル館）

「はじめて学ぶ 乳児保育」（同文書院）

資料配布

【学生へのメッセージ】

乳児保育とは何か？一般的に「乳児」とは、学問や法律の世界では、1歳までの子どもの事です。また、この時期の子どもは”赤ちゃん”とも呼ばれます。保育の現場では、3歳未満児を「乳児」と呼んでいます。

保育は環境を通して「養護と教育」を一体的に行うことを求められています。保育士は、遊びや生活の中で環境を整え必要な援助を行わなければならないのです。

あなたの身近に赤ちゃんはいますか？

これから一緒に学んでいきましょう。

【備 考】**【担当教員の連絡先等】**

担当教員E-mail：enomoto@tohaya.ac.jp

学校専用E-mail：

授 業 科目名	乳児保育Ⅱ	担 当 教員名	原田 利枝	単位数	1	授業 区分	演習	開講 時期	1 年 後期
【授業の到達目標及びテーマ】 乳児期は、人格の基礎が形成される時期である。 乳児とは、1歳未満児を意味するが、ここでいう乳児とは、3歳未満児ととらえる。 保育所保育指針で明らかなように、3歳未満児・3歳以上児とでは、発達の特徴から保育の内容・方法も大きく異なる。 今期の乳児保育では、1・2歳児の個々の発達に合わせた一人ひとりの健やかな育ちを保障するために、保育者として必要な受容的な関わりや援助の仕方を学んでいく。大人によって生命を守られ、愛され、信頼されることにより生涯に亘る生きる力の基礎が培われることの重要性を気付かせたい。									
【授業の概要】 人の一生は、乳幼児期にどんな大人と関わったかで大きく左右されるといわれる。 保育所は一日の大半を過ごす大切な場所であるとともに、保育者に関わる時間も長くその役割は重要なものであり、責任の重さも計り知れないものがある。そこを深く認識するために保育所保育指針に学びながら、発達の主な特徴を知り乳児の生活を理解した上で、保育者の適切な援助を学習する。 現場の乳児の生活や遊びの実態を知り、乳児保育の計画・記録・評価の方法を理論づけて学んでいく。 講義を中心に行うが、現場の事例を具体的に話し、参加型体験学習を取り入れて進めていく。									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	オリエンテーション 乳児保育の意義				【事前】 シラバスに目を通しておくこと				
					【事後】 授業の振り返りをする				
第2回	乳児の生活 保育のねらいと内容				【事前】 教科書を読み事前に学習しておく				
					【事後】 授業の振り返りをする				
第3回	演習 (手袋シアター作り)				【事前】 手袋シアターについて事前に調べておく (ICT活用)				
					【事後】 発表に向けて自主的に練習しておく				
第4回	乳児の基本 (乳児の主体性を尊重した生活と遊び)				【事前】 教科書を読み事前に学習をしておく				
					【事後】 授業の振り返りをする				
第5回	乳児の基本 (観察実習のフォトラーニング・グループ討議と発表)				【事前】 フォトラーニングについて調べておく (ICT活用)				
					【事後】 授業の振り返りをする				
第6回	乳児の基本 (一人ひとりの子どもの発達を理解する)				【事前】 教科書を読み事前に学習をしておく				
					【事後】 授業の振り返りをする				
第7回	乳児の発育・発達を踏まえた生活と遊びの実 際 (1歳児)				【事前】 教科書を読み事前に学習しておく				
					【事後】 授業の振り返りをする				
第8回	乳児の発育・発達を踏まえた生活と遊びの実 際 (2歳児)				【事前】 教科書を読み事前に学習をしておく				
					【事後】 授業の振り返りをする				
第9回	生活や遊びを通しての保育とその環 境 (日課-ディリープログラム-)				【事前】 教科書を読み事前に学習をしておく				
					【事後】 授業の振り返りをする				
第10回	生活や遊びを通しての保育とその環 境 (3歳未満児の生活映像使用)				【事前】 教科書を読み事前に学習しておく				
					【事後】 授業の振り返りをする				
第11回	生活や遊びを通しての保育とその環 境 (環境映像使用)				【事前】 教科書を読み事前に学習しておく				
					【事後】 授業の振り返りをする				
第12回	保育の計画と記録 (グループ討議・作業)				【事前】 教科書を読み事前に学習しておく				
					【事後】 グループで演習する。				
第13回	保育の計画と記録 (グループ発表)				【事前】 発表ができるようグループで打ち合わせておく				
					【事後】 授業の振り返りをする				
第14回	協働中の保育の実践				【事前】 教科書を読み事前に学習しておく				
					【事後】 授業の振り返りをする				
第15回	手袋シアター発表 求められる保育像について (グループ討議・発表)				【事前】 求められる保育像について自分の考えをまとめておく				
					【事後】 授業の振り返りをする				

【学生に対する評価】 ・ 定期試験（80％）、提出物（10％）、小テスト（10％）による総合評価
【テキスト及び参考書】 「改訂 乳児保育の基本」（萌文書林） 「保育所保育指針」（平成29年3月告示 厚生労働省） （フレーベル館） 「はじめて学ぶ 乳児保育」（同文書院） 資料配布
【学生へのメッセージ】 乳児期は、身体的にも精神的にも大きく成長する時期です。日々「はじめて」を体験する子どもと感動を共有することができます。 保育士は、子どもの成長を感じながら、自分自身も一緒に成長していく仕事だと思います。 子どもにとって、どんな保育士が求められているのか、一緒に考えていきましょう。
【備 考】
【担当教員の連絡先等】 学校専用E－m a i l : shin@tohaya.ac.jp

授 業 科目名	障害児保育Ⅰ	担 当 教員名	矢野 洋子	単位数	1	授業 区分	演習	開講 時期	1 年 後期
【授業の到達目標及びテーマ】									
①障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。									
②個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。									
③障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。									
④障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。									
⑤障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。									
【授業の概要】									
障害の定義や障害者対応の歴史的変遷を学び、障害のある子ども達を「特別な支援を必要とする個性をもった子ども達」ととらえながら、障害の種別に応じた知識と支援についての基本を学ぶ。									
障がいのある子どものインクルージョン及び合理的配慮の理解、人権を尊重した関わり方を示し、実践例を通じて具体的な支援方法が理解できるような授業を展開する。									
保護者や家族に対する理解や援助についても学ぶ。									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	障がい児保育を支える理念 障害のとりえ方の変化				【事前】	シラバスに目を通しておくこと。			
					【事後】	授業内容を教科書で振り返る。			
第2回	インクルージョン、合理的配慮の理解と障害児保育の基				【事前】	教科書を熟読する。関連する資料の情報収集。			
					【事後】	授業内容を教科書で振り返る。			
第3回	知的障害児の理解				【事前】	教科書を熟読する。関連する資料の情報収集。			
					【事後】	授業内容を教科書で振り返る。			
第4回	知的障害児の支援				【事前】	教科書を熟読する。関連する資料の情報収集。			
					【事後】	授業内容を教科書で振り返る。			
第5回	肢体不自由児・重症心身障害児・医療的ケア児の理解				【事前】	教科書を熟読する。関連する資料の情報収集。			
					【事後】	授業内容を教科書で振り返る。			
第6回	肢体不自由児・重症心身障害児・医療的ケア児の支援				【事前】	教科書を熟読する。関連する資料の情報収集。			
					【事後】	授業内容を教科書で振り返る。			
第7回	視覚障害児・聴覚障害児の理解と支援				【事前】	教科書を熟読する。関連する資料の情報収集。			
					【事後】	授業内容を教科書で振り返る。			
第8回	言語障害のある子どもの理解と支援				【事前】	教科書を熟読する。関連する資料の情報収集。			
					【事後】	授業内容を教科書で振り返る。			
第9回	言語障害のある子どもの理解と支援				【事前】	教科書を熟読する。関連する資料の情報収集。			
					【事後】	授業内容を教科書で振り返る。			
第10回	発達障害児の理解①ASD				【事前】	教科書を熟読する。関連する資料の情報収集。			
					【事後】	授業内容を教科書で振り返る。			
第11回	発達障害児の理解②ADHD・SLD				【事前】	教科書を熟読する。関連する資料の情報収集。			
					【事後】	授業内容を教科書で振り返る。			
第12回	発達障害児の支援				【事前】	教科書を熟読する。関連する資料の情報収集。			
					【事後】	授業内容を教科書で振り返る。			
第13回	子ども同士の関わり合いと子どもをみる視点				【事前】	教科書を熟読する。関連する資料の情報収集。			
					【事後】	授業内容を教科書で振り返る。			
第14回	保護者や家族に対する理解と支援 保護者間の交流や支え合い				【事前】	教科書を熟読する。関連する資料の情報収集。			
					【事後】	授業内容を教科書で振り返る。			
第15回	まとめ				【事前】	授業のプリントの整理をする。			
					【事後】	授業全体を振り返り、まとめる。			
【学生に対する評価】									
授業態度、提出物（20％）、定期試験（80％）などによる総合評価									

【テキスト及び参考書】 「障害児保育演習ブック」（ミネルヴァ書房）
【学生へのメッセージ】 保育士は子ども達にとって、環境要因の一つであるため、適切な関わり方がその後の適応状態に影響します。支援を必要とする子ども達の「実態把握」をきめ細かく行い、よりよい援助とは何かを一緒に考えていきましょう。教科書を見直すことで授業の復習をして下さい。
【備 考】
【担当教員の連絡先等】 担当教員E-mail:yano@tohaya.ac.jp 学校専用E-mail:

授 業 科目名	子ども家庭支援 の心理学	担 当 教員名	村上 ゆき	単位数	2	授業 区分	講義	開講 時期	1年 前期
【授業の到達目標及びテーマ】									
①生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性について理解する									
②家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、子どもとその過程を包括的に捉える視点を習得する									
③子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する									
④子どもの精神保健とその課題について理解する									
【授業の概要】									
子どもの育ちや家庭への支援をするために、子ども及び保護者・家庭・家族の理解を目指す。そのためには、生涯発達の視点から乳幼児期の重要性、保護者や家族の年代の理解を深める。また、多様な家庭背景などを有する子どもと、その家族・家庭の理解や、子どもの精神保健も学ぶ。									
親や保育士が、子どものより良き発達支援者になるための「ペアレントトレーニング」の方法・実践を取り入れて、学生と共に保育・教育現場への応用になる授業を目指す。授業計画は進行状況によって変更することもある。									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	子ども家庭支援の心理学とは	【事前】 シラバスを読んでくこと							
		【事後】 授業の内容について理解を深める							
第2回	乳幼児期から学童期前期にかけての発達	【事前】 テーマの予習をする							
		【事後】 授業の内容について理解を深める							
第3回	学童期後期から青年期にかけての発達	【事前】 テーマの予習をする							
		【事後】 授業の内容について理解を深める							
第4回	成人期・老年期における発達	【事前】 テーマの予習をする							
		【事後】 授業の内容について理解を深める							
第5回	ペアレントトレーニングの概要	【事前】 テーマの予習すること							
		【事後】 授業の内容について理解を深める							
第6回	ペアレントトレーニングの事例	【事前】 テーマの予習すること							
		【事後】 提示した課題をまとめる(事例検討)							
第7回	ペアレントトレーニングの広がり ー家庭から園・学校,そして地域へ	【事前】 テーマの予習すること							
		【事後】 配布したスライド資料をまとめる							
第8回	子育ての経験と親としての育ち	【事前】 テーマの予習をする							
		【事後】 授業の内容について理解を深める							
第9回	子育てを取り巻く社会的状況	【事前】 テーマの予習をする							
		【事後】 授業の内容について理解を深める							
第10回	多様な家庭とその理解	【事前】 テーマの予習をする							
		【事後】 提示した課題をまとめる							
第11回	子どもの生活・生育環境とその影響	【事前】 テーマの予習をする							
		【事後】 授業の内容について理解を深める							
第12回	子どもの心の健康影響するもの	【事前】 テーマの予習をする							
		【事後】 授業の内容について理解を深める							
第13回	子どもの心身症	【事前】 テーマの予習をする							
		【事後】 授業の内容について理解を深める							
第14回	子どもの気になる行動	【事前】 テーマの予習をする							
		【事後】 提示した課題をまとめる(事例検討)							
第15回	まとめ	【事前】 テーマの予習をする							
		【事後】 保育者としての子ども理解と対応のまとめ							
【学生に対する評価】									
提出物や受講態度（20％）、定期試験（80％）を総合評価									

【テキスト及び参考書】 テキスト 「子ども理解・個と集団の育ちを支える理論と方法」 請川滋大著（萌文書林） 発達障害の早期療育とペアレント・トレーニング 上野良樹著 作業療法チーム著（ぶどう社） 参考書 「保育所保育指針」（平成29年3月告示 厚生労働省）（フレーベル館）
【学生へのメッセージ】 保育者には、子どもを保育するとともに、子どもの育ちや家庭への支援も求められています。子どものサポートの方法として、効果的なペアレントトレーニングを紹介します。ケース検討では、学生と意見交換をしながら、支援が必要な子ども理解を深めていきます。
【備 考】 復習を基本とし、ノートを見返し学んだ内容を振り返ってください。
【担当教員の連絡先等】 学校専用E－m a i l : shin@tohaya.ac.jp

授 業 科目名	幼児理解と実践	担 当 教員名	加来 栄治 (他)	単位数	1	授業 区分	演習	開講 時期	1 年 通年
【授業の到達目標及びテーマ】									
①幼稚園の教育内容・機能・園生活の流れなどについて理解する。									
②遊びや生活を通して幼児と関わる中で幼児の発達の実情を知る。									
③幼稚園教諭の専門性に触れながら、幼稚園教諭の職務内容及び役割等に関して体験を通して知る。									
【授業の概要】									
この授業では、年間を通して継続的に、附属荏田幼稚園の子ども達と交流をしていく。自由な時間の遊びの中で子どもと触れ合い、一緒に遊びを共有していくことで子どもを知り、理解していくことを目的とする。また、荏田幼稚園の教師と子どもの関わりを間近で観察することで、幼稚園教諭の専門性に触れながら実践力を高めていく。学生は、観察した内容や学びを記録する方法とその意味を理解し、次年度から始まる教育実習に向けて自己の課題を見つけていくことが重要である。									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第 1 回	附属荏田幼稚園オリエンテーション				【事前】身だしなみを整え持ち物、質問内容を確認しておく				
					【事後】オリエンテーション内容の確認、報告書の提出				
第 2 回	第 1 回体験実習（子どもとの関わりについて）				【事前】準備物の確認、授業のねらいの確認をしておく				
					【事後】実習記録を振り返り、自己の課題を明確にする				
第 3 回	第 2 回体験実習（教師の助言、言葉かけについて）				【事前】準備物の確認、授業のねらいの確認をしておく				
					【事後】実習記録を振り返り、自己の課題を明確にする				
第 4 回	第 3 回体験実習（運動会の練習見学）				【事前】準備物の確認、授業のねらいの確認をしておく				
					【事後】実習記録を振り返り、自己の課題を明確にする				
第 5 回	第 4 回体験実習（子どもの発達について）				【事前】準備物の確認、授業のねらいの確認をしておく				
					【事後】実習記録を振り返り、自己の課題を明確にする				
第 6 回	第 5 回体験実習（子どもの発達について）				【事前】準備物の確認、授業のねらいの確認をしておく				
					【事後】実習記録を振り返り、自己の課題を明確にする				
第 7 回	実習の振り返り、記録について (ICTを利用し、保育における記録について調べる)				【事前】配布資料を通読しておくこと				
					【事後】配布資料の発達について通読し、授業レポートの作成				
第 8 回	附属荏田幼稚園での設定保育見学実習				【事前】配布資料等を通読し、授業のねらいを確認しておく				
					【事後】授業記録と実践指導計画案を参考に、指導計画案を考える				
第 9 回	まとめ、附属荏田幼稚園卒園式の練習見学				【事前】配布書類等を通読し、授業のねらいの確認をしておく				
					【事後】教育実習に向けて、記録と指導計画の準備				
【学生に対する評価】									
実習、授業への参加度(50%)、提出物（実習記録、ファイリング等）(50%)による総合評価									
【テキスト及び参考書】									
「幼稚園・保育園実習まるごとおたすけガイド」（チャイルド本社）									
「幼稚園教育指導資料第 1 集 幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開」（チャイルド本社）									
「幼稚園教育指導資料第 5 集 幼児理解に基づいた評価」（チャイルド本社）									
「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示 文部科学省）（フレーベル館）									
「保育所保育指針」（平成29年3月告示 厚生労働省）（フレーベル館）									
「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）（フレーベル館）									
【学生へのメッセージ】									
朝の検温、実習エプロン、体育館シューズ、帽子等、忘れ物がある場合、見学参加となります。また、子ども達と触れ合いますので、頭髮、服装、爪等、身だしなみを整えておきましょう。									
実習後には荏田幼稚園の先生と振り返りの時間を設けることもあります。									
疑問や質問など積極的に聞いていきましょう。									
【備 考】									
体験実習を行う際は、1回の授業を2コマ続けて（180分）実施する。									
開講回数が限られているため、欠席のないように気を付けること。									
【担当教員の連絡先等】									
担当教員E-mail：kaku@tohaya.ac.jp									
学校専用E-mail									